フリースクール等民間施設を利用する
保護者アンケート調査結果

令和７年６月２６日（木）

滋賀県子ども若者部子どもの育ち学び支援課

もくじ

調査概要（登録時アンケート）---------- 4
調査概要（追加アンケート）---------- 5
調査概要（毎月アンケート）---------- 6
調査結果のポイント（登録時アンケート）---------- 7
調査結果のポイント（毎月アンケート）---------- 9

【調査結果：保護者（登録時アンケート）】
１）居住市町---------- 11
２）休み始めた時期---------- 11
３）休み始めた理由---------- 12
４）休み始めたとき心配だったこと---------- 12
５）民間施設を利用し始めた時期---------- 13
６）民間施設の利用頻度---------- 13
７）民間施設を利用するまでにかかった期間---------- 14
８）民間施設を探すなかでの苦労---------- 14
９）民間施設の情報入手経路---------- 15
１０）利用する民間施設を選んだ理由---------- 15
１１）民間施設に通う手段---------- 16
１２）民間施設利用にかかる費用総額---------- 16
１３）民間施設利用にかかる授業料---------- 17
１４）民間施設利用にかかる教材費---------- 17
１５）民間施設利用にかかる昼食代---------- 18
１６）民間施設利用にかかる交通費---------- 18
１７）民間施設利用にかかる活動費---------- 19
１８）世帯年収---------- 19
１９）休み始めたことによる世帯収入への影響---------- 20
２０）世帯における最も収入が多い者---------- 20
２１）(20)副問　就業形態---------- 21
２２）(20)副問　仕事への影響---------- 21
２３）世帯における２番目に収入が多い者---------- 22
２４）(23)副問　就業形態---------- 22
２５）(23)副問　仕事への影響---------- 23
２６）民間施設を利用する上での負担---------- 23
２７）休み始めた際のイライラ---------- 24
２８）休み始めた際の孤独感・孤立感---------- 24
２９）休み始めた際の自責の念---------- 24
３０）休み始めた際の食生活や生活リズム---------- 24
３１）休み始めてから民間施設利用までの自宅での様子---------- 25
３２）休み始めた際の相談相手---------- 26
３３）求める公的支援【学校】---------- 26
３４）求める公的支援【学校教員の資質能力】---------- 27
３５）求める公的支援【公的な施設や情報】---------- 27
３６）求める公的支援【民間施設】---------- 28
３７）一般的にフリースクール等民間施設に求めること---------- 28
３８）教室以外の居場所の利用有無---------- 29
３９）ＳＣ、ＳＳＷの利用有無---------- 29
４０）教育支援センターの認知度---------- 30
４１）(40)副問　教育支援センターの利用有無---------- 30
４２）(41)副問　教育支援センターの利用理由---------- 31
４３）(41)副問　教育支援センターへの要望---------- 31
４４）(41)副問　教育支援センターを利用しない理由---------- 32
４５）(40)副問　教育支援センターの利用意向---------- 32
４６）(45)副問　利用してみようと思う理由---------- 33
４７）(45)副問　利用してみようと思わない理由---------- 33
４８）教育機会確保法の認知度---------- 34
４９）(48)副問　教育機会確保法の情報入手経路---------- 34

もくじ

【調査結果：保護者（追加アンケート）】

５０）小学校入学前の利用施設---------- 35
５１）(50)副問　利用施設が小学校の学区内にあるか---------- 35
５２）(50)副問　小学校入学前の登園渋り---------- 36
５３）(50)副問　小学校入学前の登園渋り要因---------- 36
５４）小学校入学時の就学前からの友達の有無---------- 37

【調査結果：保護者（毎月アンケート）】

集計上の注意（毎月アンケート）---------- 38
５５）学校との話の有無---------- 39
５６）(55)副問　話し相手---------- 40
５７）(55)副問　話し内容---------- 41
５８）(55)副問　話をしなかった理由---------- 42
５９）登校した日数---------- 43
６０）(59)副問　登校場所---------- 44
６１）(59)副問　登校できた理由---------- 45
６２）民間施設の利用日数---------- 46
６３）民間施設の活動で良かったこと---------- 47
６４）(62)副問　利用しなかった理由---------- 48
６５）民間施設以外の学習の機会【施設利用あり】---------- 49
６６）民間施設以外の学習の機会【施設利用なし】---------- 50
６７）前月比較（イライラ度）---------- 51
６８）前月比較（孤独感・孤立感）---------- 52
６９）前月比較（自責の念）---------- 53
７０）前月比較（食生活・生活リズム）---------- 54
７１）前月比較（子や保護者の自宅での様子）---------- 55
７２）来月の過ごし方---------- 56
７３）(72)副問　登校する理由---------- 57
７４）(72)副問　民間施設を利用する理由---------- 58
７５）(72)副問　登校も民間施設も利用する理由---------- 59
７６）子どもの良い変化の有無---------- 60
７７）(76)副問　良い変化があったと感じた理由---------- 61
７８）(76)副問　良い変化があったと感じなかった理由-------- 62

調査概要（登録時アンケート）

目的

滋賀県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍し、フリースクール等民間施設を利用する不登校の状態にある児童生徒の保護者を対象としてアンケート調査を実施し、民間施設利用の実態等を把握することで、今後の施策の検討の参考とする。

調査対象者

以下の全てに該当する児童生徒の保護者

■　小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍していること。
■　県内市町（大津市除く）の住民であること。
■　令和５年度間または令和６年度に不登校の状態（何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあり、概ね30日以上登校しなかった児童・生徒（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。）をいう。）であること。
■　滋賀県の調査に誠実に協力いただけること。
■　以下の考え方全てに該当する民間施設を利用していること。
　○　不登校児童生徒に対する相談・指導等を主な事業目的とする学校以外の民間の施設であること。
　○　実施者は事業に関する深い理解と知識・経験や、社会的信望を有すること。
　○　教育への深い理解と、指導についての知識・経験と熱意を有する相談・指導スタッフが配置されていること。
　　また、相談・指導スタッフは過去に子どもを対象とした性犯罪に関わっていないこと。
　○　学校との間に十分な連携・協力関係が保たれていること。
　○　課業時間（概ね8:30～16:00）に月１日以上開設されていること。

実施期間

令和６年７月１日～令和７年３月１５日　登録時に１回

回答数

【調査対象者数】１６５名　　【回答者数】１６１名（回答率：９７．６％）

小１	小２	小３	小４	小５	小６
６名	１１名	１８名	２６名	１５名	１８名
中１	中２	中３			
２１名	２８名	１８名			

実施方法

登録申請時にＷＥＢ回答。

調査概要（追加アンケート）

目的

小学校１年生から学校を休み始めた児童生徒の小学校入学前の実態を把握することを目的とする。

調査対象者

下記実施期間までに登録申請が完了している人のうち、登録時アンケート図２（P.11）において「小学校１年生」から学校を休み始めていると回答された人

実施期間

令和６年１０月２８日～１１月９日　１回

回答数

【調査対象者数】４８名　　【回答者数】４３名（回答率：８９．６％）

小１	小２	小３	小４	小５	小６
３名	７名	１０名	１１名	６名	１名
中１	中２	中３			
３名	２名	０名			

実施方法

ＷＥＢ回答。

調査概要（毎月アンケート）

目的

滋賀県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍し、フリースクール等民間施設を利用する不登校の状態にある児童生徒の保護者を対象としてアンケート調査を実施し、民間施設を利用することによる気持ちの変化等を把握することで、今後の施策の検討の参考とする。

調査対象者

以下の全てに該当する児童生徒の保護者

■　小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍していること。
■　県内市町（大津市除く）の住民であること。
■　令和５年度間または令和６年度に不登校の状態（何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあり、概ね30日以上登校しなかった児童・生徒（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。）をいう。）であること。
■　滋賀県の調査に誠実に協力いただけること。
■　以下の考え方全てに該当する民間施設を利用していること。
　○　不登校児童生徒に対する相談・指導等を主な事業目的とする学校以外の民間の施設であること。
　○　実施者は事業に関する深い理解と知識・経験や、社会的信望を有すること。
　○　教育への深い理解と、指導についての知識・経験と熱意を有する相談・指導スタッフが配置されていること。
　　また、相談・指導スタッフは過去に子どもを対象とした性犯罪に関わっていないこと。
　○　学校との間に十分な連携・協力関係が保たれていること。
　○　課業時間（概ね8:30～16:00）に月１日以上開設されていること。

実施期間

令和６年７月１日～令和７年３月１５日　月に１回（計１２回）

回答数

【調査対象者数】１６５名　　【回答数】各月最大１６０名（回答率：９７.０%）

実施方法

ＷＥＢ回答。登録されたメールアドレスへ毎月案内と回答期限、アンケートフォームを配信。

調査結果のポイント（登録時アンケート）

学校を休み始めた時期等について

○「小学１年生」が４割弱で最も多く、このうち６割強は就学前の幼児教育・保育施設においても登園を渋ることがあった。
○学校を休み始めた理由は「学校での学習、宿題」が４割弱で最も多く、次いで「漠然とした不安」が３割強となっている。
○保護者が心配だったことは「子どもが精神的に不安定なこと」が６割強で最も多く、次いで「学習が遅れていること」「自信を失っているようにみえること」が５割強となっている。

フリースクール等民間施設の利用について

○フリースクール等民間施設を利用し始めたのは、「小学１年生」が２割弱で最も多く、次いで「小学３年生」「小学６年生」「小学２年生」「小学５年生」の順にそれぞれ１割強となっている。
○フリースクール等民間施設を探すなかでの苦労は「施設の情報はどこで入手できるのか分からなかった」「誰に相談したらいいのか分からなかった」「家の近くに利用できる施設があるのか分からなかった」がそれぞれ４割強となっている。
○フリースクール等民間施設を選んだ理由は「子ども本人が利用したいと希望したから」が６割強、「家族以外と接する機会が必要だと思ったから」が５割強、「学習や活動内容が子どもに合うと思ったから」が４割強となっている。

保護者の負担について

○フリースクール等民間施設の利用にかかる授業料は利用頻度にも関わるが、「30,000円以上40,000円未満」が２割強で最も多く、次いで「1円以上5,000円未満」が２割弱、「20,000円以上30,000円未満」が１割強となっており、全体の平均は約21,935円となっている。
○学校を休み始めたことによる仕事への影響は、主に母親（２番目に収入が多い者）の８割の方が大きな影響があるとし、「勤務時間等の変更」「遅刻・早退・欠勤の増加」がそれぞれ４割弱、「退職」が２割弱、「転職」が１割弱などとなっている。
○保護者が負担に感じていることは「経済的負担」が８割弱で最も多く、次いで「送迎の負担」が７割弱、「昼食の準備」が４割強となっている。
○学校を休み始めたことにより、保護者のイライラや孤独感・孤立感、自責の念、食生活や生活リズムが不安定になることは、それぞれ約６～７割が「増えた」と回答している。

調査結果のポイント（登録時アンケート）

求める公的支援について

〇学校に対しては「フリースクール等民間施設の連携を深める」が８割弱と最も多く、次いで「学校において、教室以外の居場所（保健室など）を充実する」が６割強、「オンライン授業を受けられるようにする」「学校の教員を増やす」が５割弱となっている。その他「学校の制度やカリキュラムそのものの見直しが必要」という回答も２割弱あった。
〇学校教員の資質能力については「子どもの個性に合わせた生徒指導力」が７割強と最も多く、次いで「フリースクール等民間施設への理解」「特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応力」がそれぞれ７割弱となっている。
〇公的な施設や情報については「フリースクール等民間施設の情報を集めやすくする」が８割強と最も多く、次いで「保護者同士が情報交換をしたり、交流したりする場を増やす」「教育支援センターを充実させる・増やす」がそれぞれ５割強となっている。
〇フリースクール等民間施設については「フリースクール等民間施設の運営者に助成金を支給する」が約９割と最も多く、次いで「フリースクール等民間施設を利用する家庭に助成金を支給する」が９割弱、「フリースクール等民間施設の環境整備を支援する」が８割弱となっている。

公的支援・情報の認知、活用状況について

〇学校の教室以外の居場所（校内教育支援センターや保健室など）については７割強が現在利用しておらず、「一度も利用したことがない」が４割強となっている。
〇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーについては「どちらも利用していない」が約５割と最も多く、「スクールカウンセラーを利用している」が２割強、「スクールソーシャルワーカーを利用している」が２割弱など、専門職の利用は約半数にとどまっている。
〇教育支援センターについては「よく知っている」が約５割、「聞いたことはあるが、どのようなところかは知らない」が３割強、「知らない」が２割弱であり、約半数がよく知らない状況にある。
〇教育支援センターを利用している理由は「費用がかからないから」が７割強と、経済的な理由によるものが多くを占めている。一方、利用していない理由は「子どもが利用したがらないから」が７割強と最も多く、次いで「雰囲気が子どもに合わないから」が５割弱、「活動・指導内容が子どもに合わないから」が４割強となっている。

調査結果のポイント（毎月アンケート）

学校との関わりについて

〇保護者が学校と話をしたかどうかについて、年間を通じて総じて、「面談等、直接会って話をした」、「直接会ったり、電話をしたりして話をした」が多い一方で、「話をしていない」も２学期以降１割程度あった。
〇「直接会って話をした」「電話で話をした」相手は、１年を通してほとんどが「担任の先生」であり、次いで「担任以外の先生」となっている。一方、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談は１年を通して少なかった。

登校について

〇１年間を通して「１～５日登校している」と「登校していない」が多く、どの月が特に登校をしているなどの特徴的な傾向はみられなかった。
〇登校した場所は４月では「子どものクラス」が多いが、月日が経つにつれて、クラスではなく「子どものクラス以外の別室」や「放課後登校」が多くなる傾向になっている。
〇登校できた理由は「学校の先生からの声かけ」を中心に「その日は登校する気になった」という本人の意思もあった。その他、「家族からの声かけ」や「友だちからの声かけ」「学校行事に参加したかったから」などが登校のきっかけになっている。

フリースクール等民間施設の利用について

〇１年間を通して「１日～５日」の利用が多かった。８月は夏休みの影響もあり「利用しなかった」が多いものの、「６日～10日」、「16日以上」という回答も年間を通して多い傾向がある。
〇フリースクール等民間施設での活動について、「学校・自宅以外で過ごせる場所があったこと」「子どものペースで過ごせたこと」「いろいろな体験ができたこと」「子どもたちが自主的に取り組める活動があったこと」がよかったと感じており、１年間を通してそれほど大きな変化は見られない。

調査結果のポイント（毎月アンケート）

保護者の精神的負担（前月との比較）について

○イライラすることはいずれも「変わらない」が約60～80%の間で推移しているが、７月と９月は、「減った」の回答がやや多く、８月は「増えた」の回答が増加している。
○孤独感・孤立感はいずれも「変わらない」が約70～80%の間で推移しているが、７月～９月ごろに、「減った」の回答がやや多く、３月は「増えた」「減った」の回答がともに増加している。
○落ち込むこと・自分を責めることはいずれも「変わらない」が約60～80%の間で推移しているが、８月は「減った」「増えた」人がともに増加し、「変わらない」と回答する人が減少している。
○食生活や生活リズムはいずれも「変わらない」が約70～90%の間で推移し、７月～９月にかけて「安定した」の回答がやや増加している。

子どもの来月のすごし方について

○１年間を通して「登校するし、フリースクール等民間施設も利用する」「フリースクール等民間施設を利用する」が多かった。８月は学校が休みであるためか、７月時点の来月の予定は「登校するし、フリースクール等民間施設も利用する」が顕著に少なく、「特に考えていない」が多くなる傾向があった。
○来月は登校する理由について、「本人が望んでいるから」がどの月も回答の多くを占めた。ただし、図70において「登校する」と回答した人が少ないことに注意する必要がある。
○来月はフリースクール等民間施設を利用する理由について、「本人が望んでいるから」がどの月も回答の多くを占めた。次いで「フリースクール等民間施設の活動内容が子どもに合いそうだから」の回答が多かったが、月日が経つにつれてだんだん減っていく傾向がみられた。

子どもの変化について

○１年間を通して「良い変化があった」との回答が多かったが、11月以降は「良い変化があったと感じたことはなかった」との回答がやや多い傾向がみられた。
○良い変化があったと感じた理由について、「安定して生活が送れるようになった」「学習意欲が高まった」「心が落ち着いてきた」「健康的に過ごすことができた」「明るくなった」などの回答が多い傾向にあった。

アンケート調査結果（登録時アンケート）

図１　居住市町

（n=161）

☞ 各市町教育委員会が不登校状態と認め、かつ民間施設を利用している子どもの保護者がアンケート回答の対象となっている。

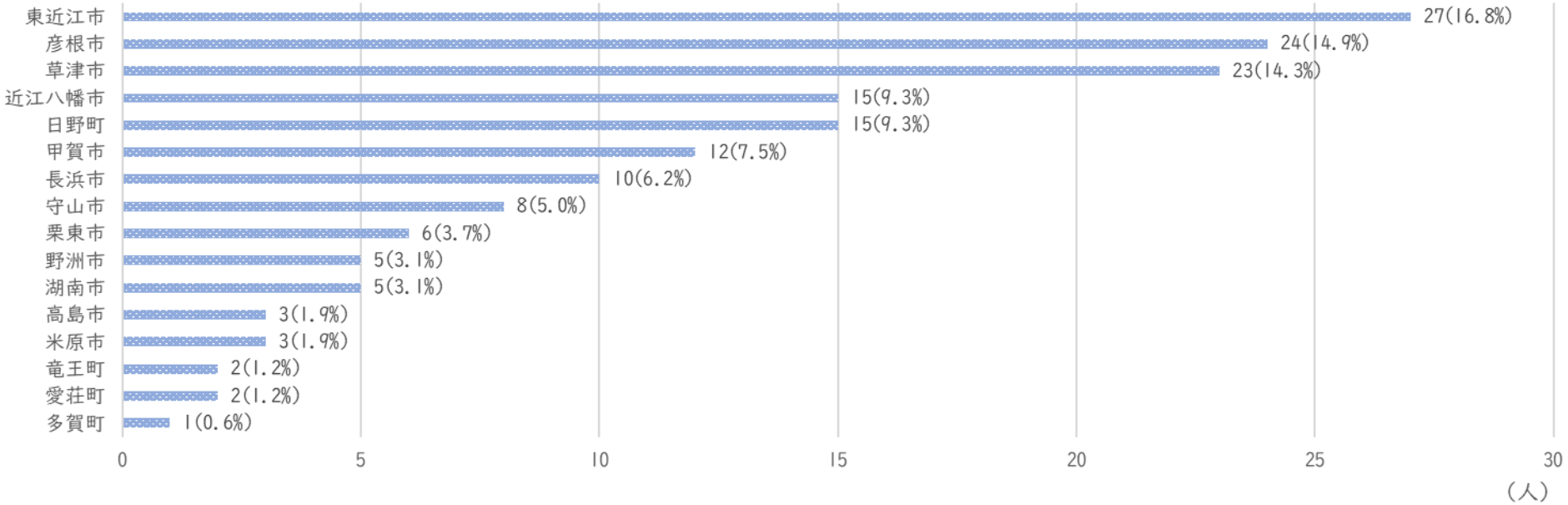


図２　学校を休み始めた時期

（n=161）

☞ 学校を休むようになったのは、「小学１年生」が４割弱で最多。
幼児教育・保育からの学習環境の変化が大きく影響していると考えられる。

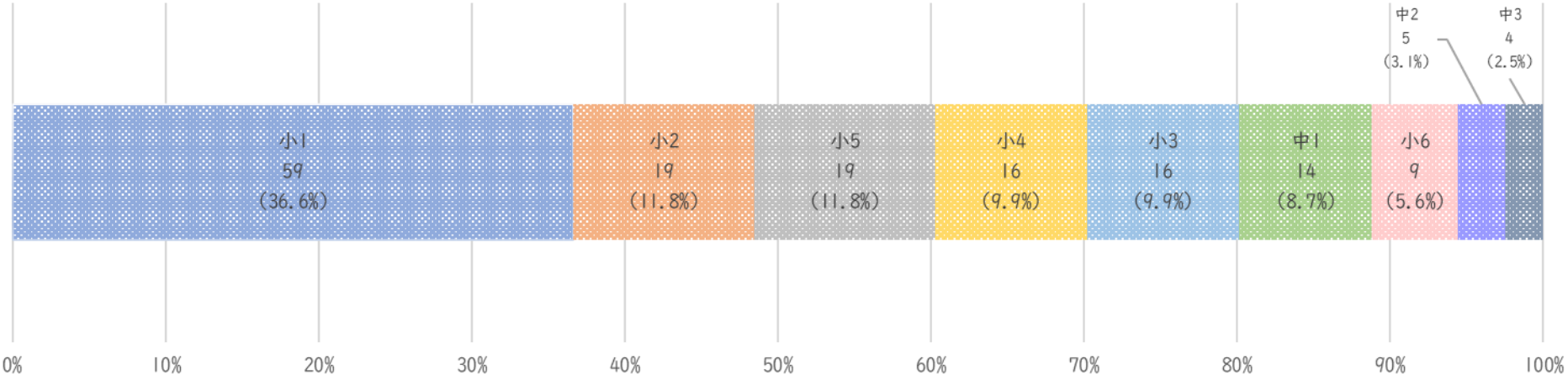


図３　学校を休み始めた理由（複数回答）

☞ 学校を休むようになったきっかけとして、「学校での学習、宿題」４割弱、「漠然とした不安」３割強、「友だち」３割弱が回答。子どもアンケートと比較すると、「友だち」「先生」「いじめ、いやがらせ」と回答した割合が高く、不登校の背景・要因と人間関係、いじめ被害との関連に注意が必要である。

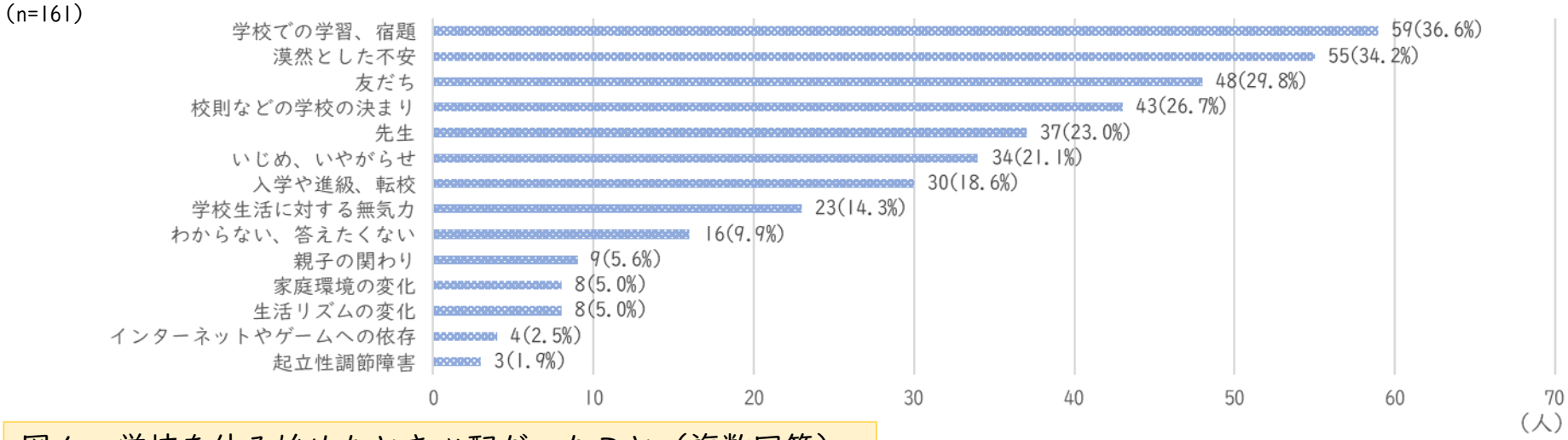


図４　学校を休み始めたとき心配だったこと（複数回答）

☞ 「子どもが精神的に不安定なこと」６割強、「学習が遅れていること」「自信を失っているようにみえること」５割強が回答。

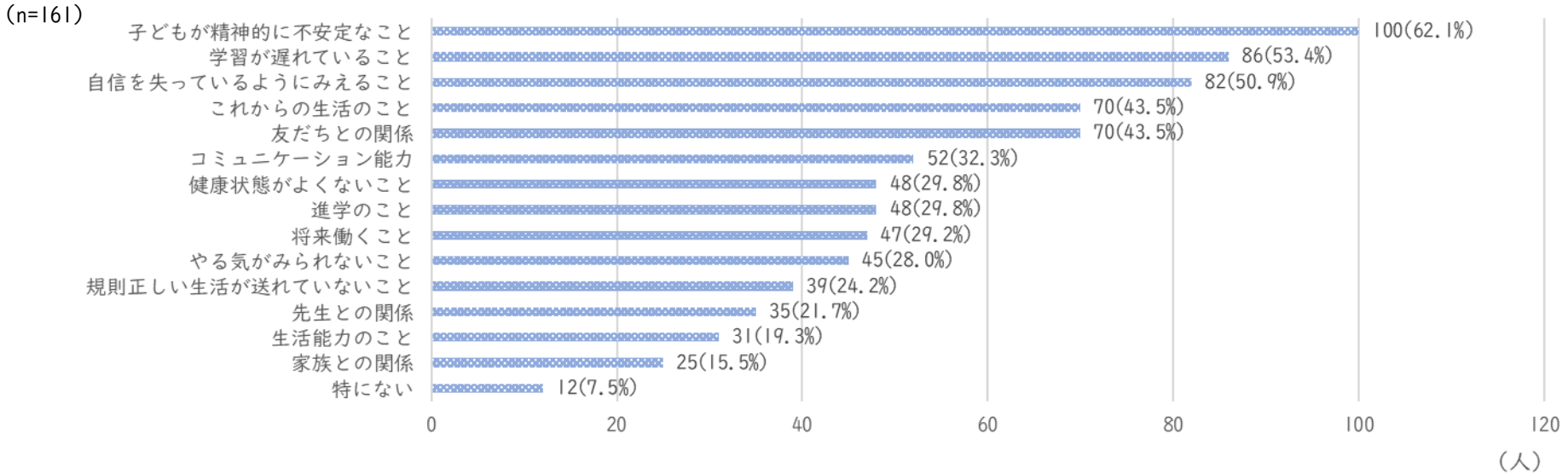


図５　フリースクール等民間施設を利用し始めた時期

☞ フリースクール等民間施設を利用し始めたのは、「小学１年生」２割弱、「小学３年生」「小学６年生」「小学２年生」「小学５年生」の順にそれぞれ１割強となっている。

(n=161)

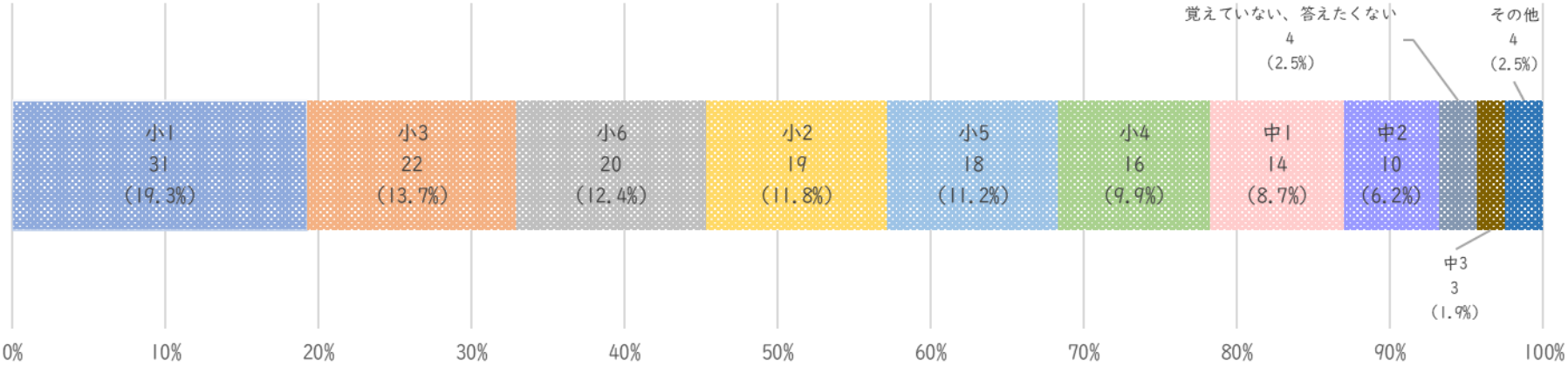


図６　フリースクール等民間施設の利用頻度

☞ 登録時アンケートにおいては「週２～３日」が３割弱と最も多く、次いで「週に５日以上」「週に１日」２割弱となっているが、毎月アンケート（P.42　図58）においてはどの月も「月１日～５日」が３割弱を占めている。登録時アンケートは予定も含めて回答されていることが多いのか、毎月アンケートの実績に応じた回答（P.42。「月１日～５日」が最多）とは相違していることに留意が必要である。

(n=161)

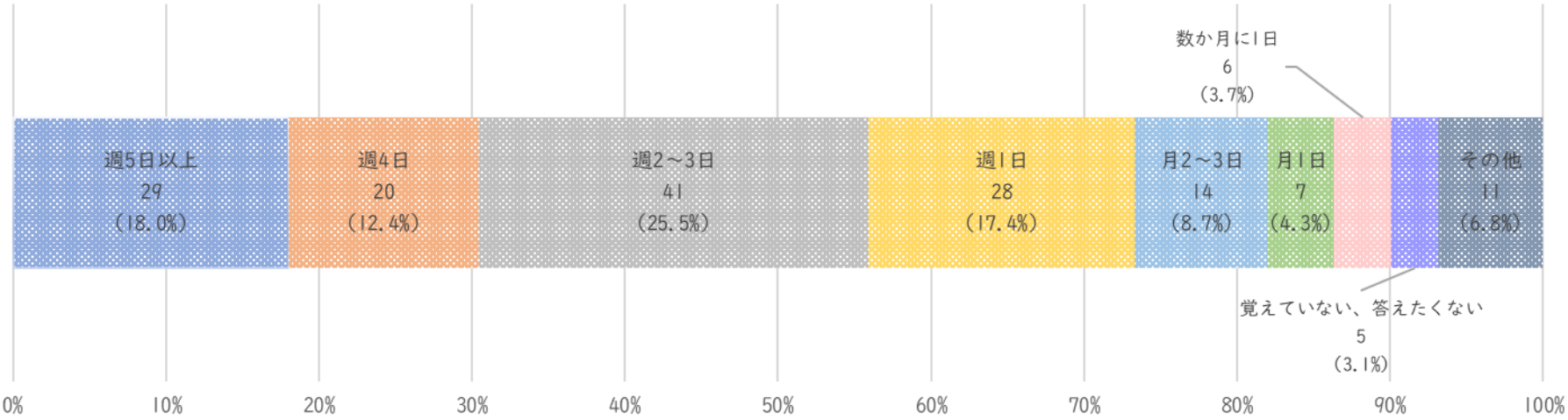


図７　フリースクール等民間施設を利用するまでにかかった期間

☞ 「１か月未満」「６か月～１年未満」２割弱、「１か月～３か月未満」「３か月～６か月未満」１割強となっている。回答者の過半数が、民間施設を利用するまでの期間が１年未満となっているが、１年以上かかっている回答者も４割ほどいることがわかる。

（n=161）

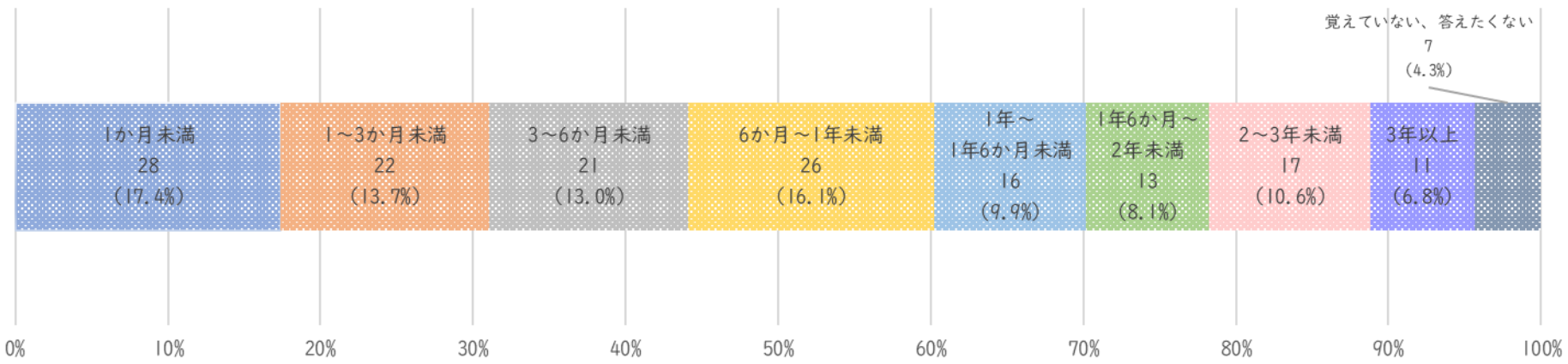


図８　フリースクール等民間施設を探すなかでの苦労（複数回答）

☞ 「施設の情報はどこで入手できるのか分からなかった」「誰に相談したらいいのか分からなかった」「家の近くに利用できる施設があるのか分からなかった」４割強となっている。情報の入手や相談先について苦労していたことが読み取れる。

（n=161）

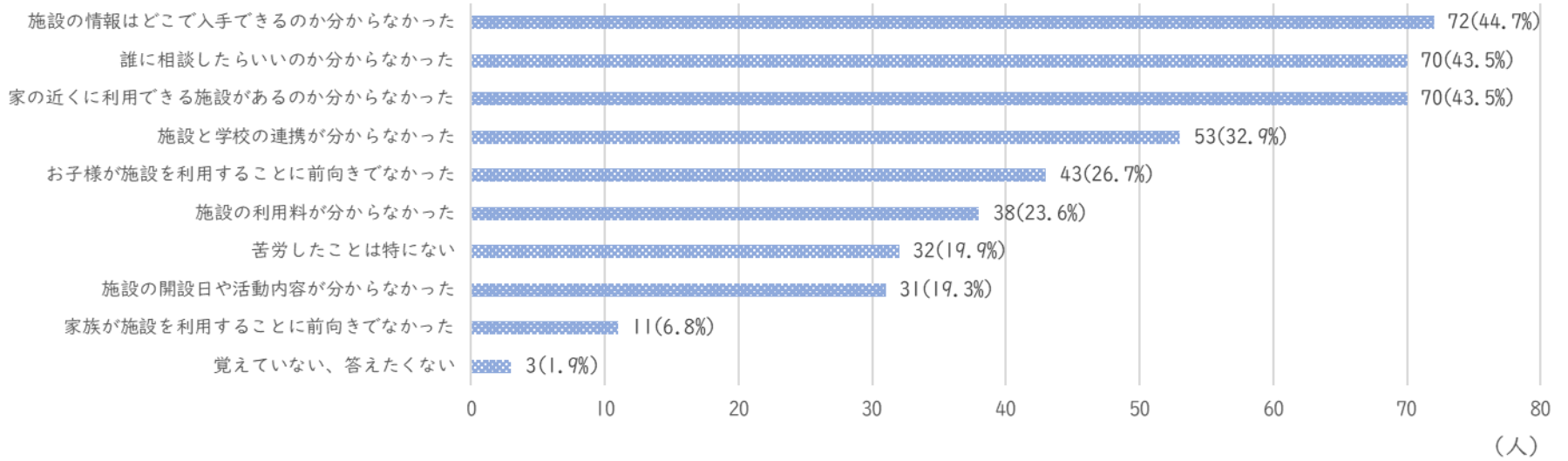


図９　フリースクール等民間施設の情報入手経路（複数回答）

☞ 「ホームページやSNSで知った」「近所の人、知り合い、親戚から教えてもらった」４割強となっており、回答者の多くがインターネットや知人から情報を入手していた。「学校から教えてもらった」は１割弱と少なく、学校関係者からの情報提供はかなり限定的である。

（n=161）

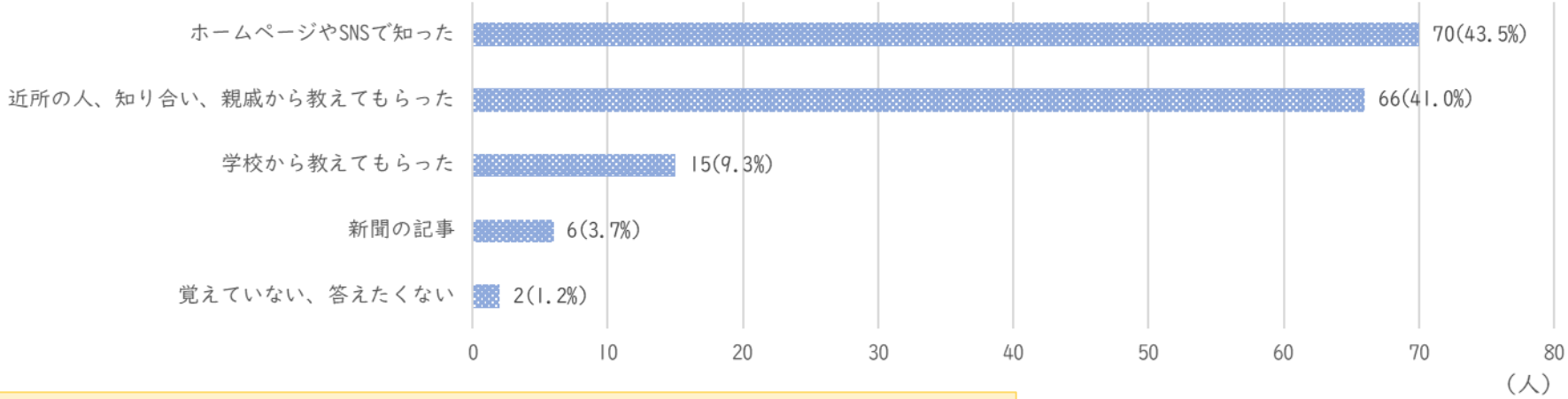


図10　利用するフリースクール等民間施設を選んだ理由（複数回答）

☞ 「子ども本人が利用したいと希望したから」６割強、「家族以外と接する機会が必要だと思ったから」５割強、「学習や活動内容が子どもに合うと思ったから」４割強となっている。子ども本人が利用すると決めるまで、見学や体験を通し本人の思いを尊重しようとしていることが読み取れる。

（n=161）

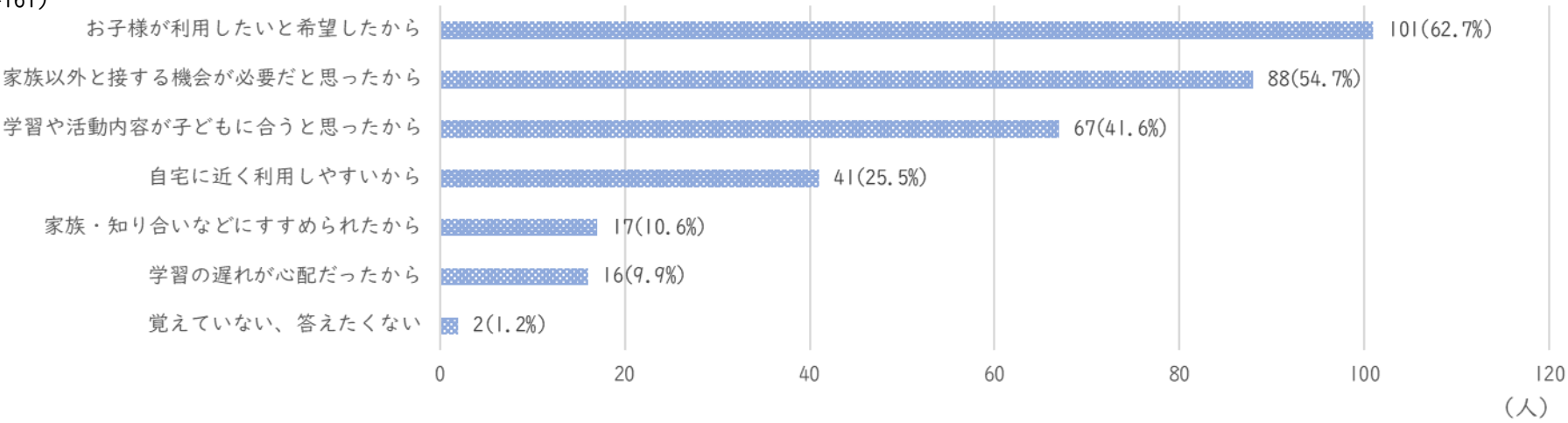


図11　フリースクール等民間施設に通う手段

☞ 「保護者が送迎している」７割弱で最も多い。「お子様一人で電車やバスを利用して通っている」１割強、「お子様一人で自転車で通っている」「お子様一人で歩いて通っている」１割未満と、子ども一人で通うのは約２割となっている。

(n=161)

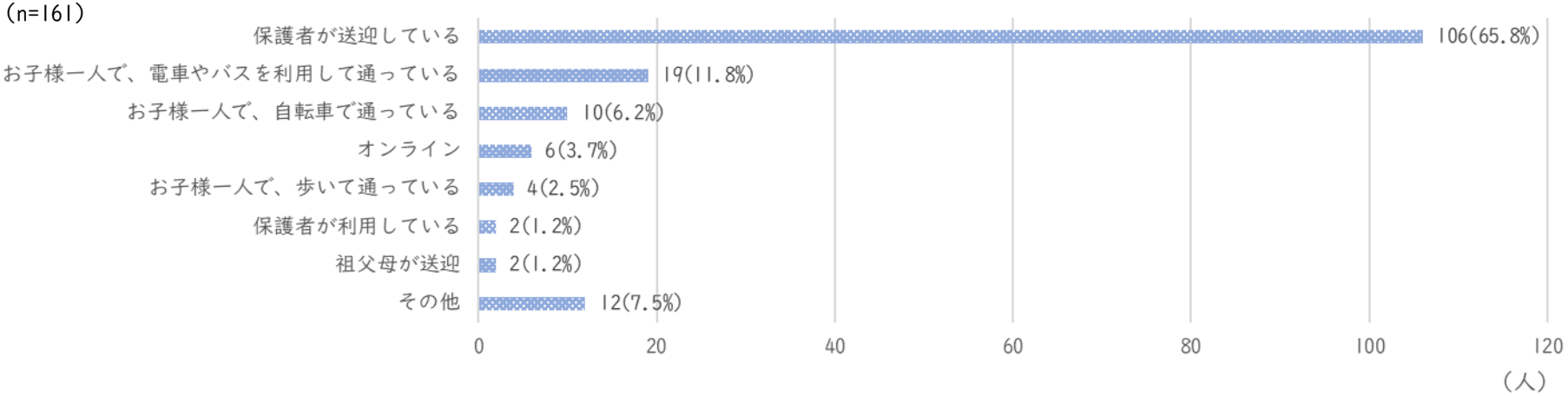


図12　民間施設利用にかかる費用の総額（／月）

☞ 「30,000円以上40,000円未満」が約２割で最も多く、次いで「50,000円以上」２割弱、「40,000円以上50,000円未満」１割強となっている。

(n=131)　※「わからない」と回答した者を除く

［参考情報（総額）］
・週４～５日利用平均≒53,154円　（有効回答46人）
・週２～５日利用平均≒51,286円　（有効回答81人）
・週１～５日利用平均≒43,305円　（有効回答104人）
・週２～３日利用平均≒48,830円　（有効回答35人）
・週１日利用平均　≒15,196円　（有効回答23人）
◎全体平均　≒37,568円　（有効回答131人）

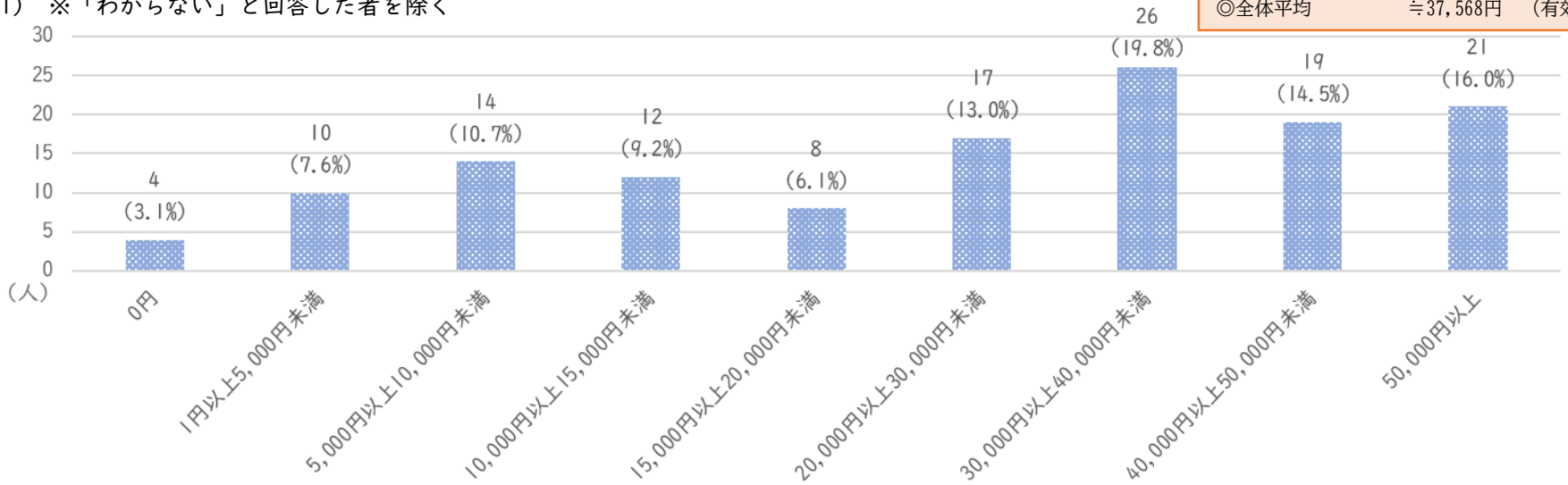


図13　民間施設利用にかかる授業料（／月）

☞ 「30,000円以上40,000円未満」が２割強で最も多く、次いで「1円以上5,000円未満」２割弱、「20,000円以上30,000円未満」１割強となっている。

(n=124)　※「わからない」と回答した者を除く

［参考情報（授業料）］
・週４～５日利用平均≒33,053円　（有効回答44人）
・週２～５日利用平均≒29,100円　（有効回答77人）
・週１～５日利用平均≒24,677円　（有効回答100人）
・週２～３日利用平均≒23,830円　（有効回答33人）
・週１日利用平均　≒ 9,867円　（有効回答23人）
◎全体平均　≒21,935円　（有効回答124人）

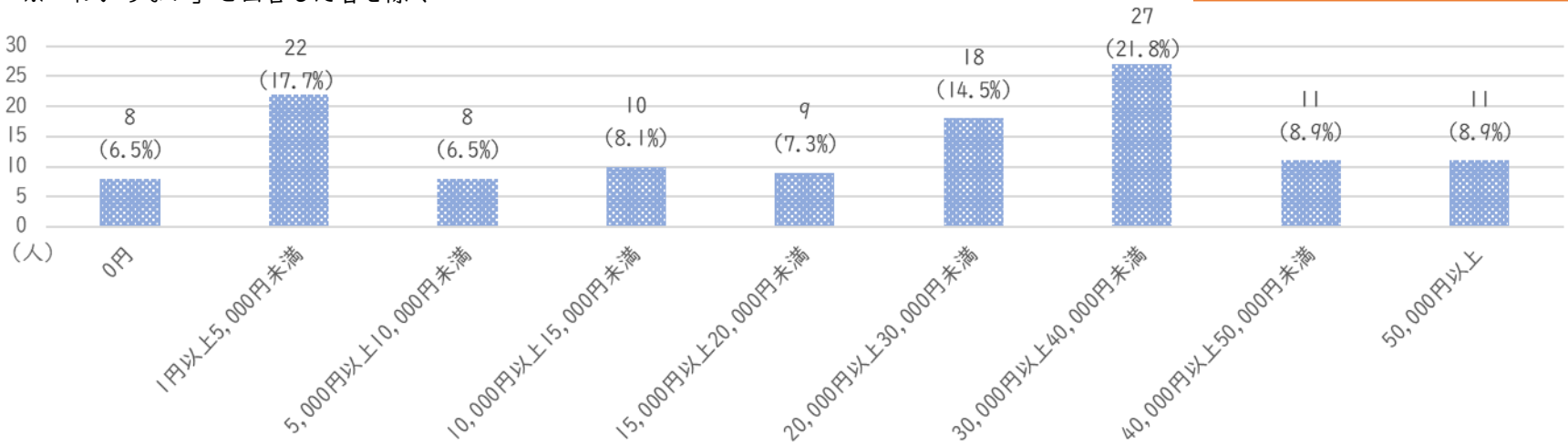


図14　民間施設利用にかかる教材費（／月）

☞ 「0円」が約７割で最も多い。在籍学校の教科書などを活用しているためとみられる。

(n=58)　※「わからない」と回答した者を除く

［参考情報（教材費）］
・週４～５日利用平均≒1,052円　（有効回答19人）
・週２～５日利用平均≒2,843円　（有効回答39人）
・週１～５日利用平均≒2,622円　（有効回答50人）
・週２～３日利用平均≒4,545円　（有効回答20人）
・週１日利用平均　≒1,836円　（有効回答11人）
◎全体平均　≒2,346円　（有効回答58人）

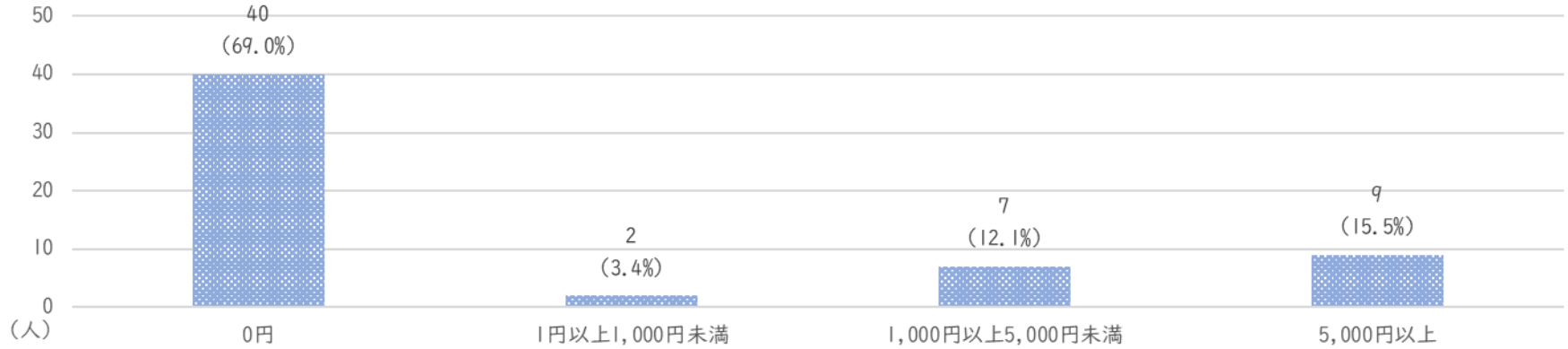


図15　民間施設利用にかかる昼食代（／月）

☞ 「1円以上5,000円未満」が５割強で過半数を占めていた。

(n=102)　※「わからない」と回答した者を除く

［参考情報（昼食代）］
・週４～５日利用平均≒4,343円　（有効回答41人）
・週２～５日利用平均≒3,671円　（有効回答66人）
・週１～５日利用平均≒3,291円　（有効回答85人）
・週２～３日利用平均≒2,568円　（有効回答25人）
・週１日利用平均　≒1,971円　（有効回答19人）
◎全体平均　≒3,044円　（有効回答102人）

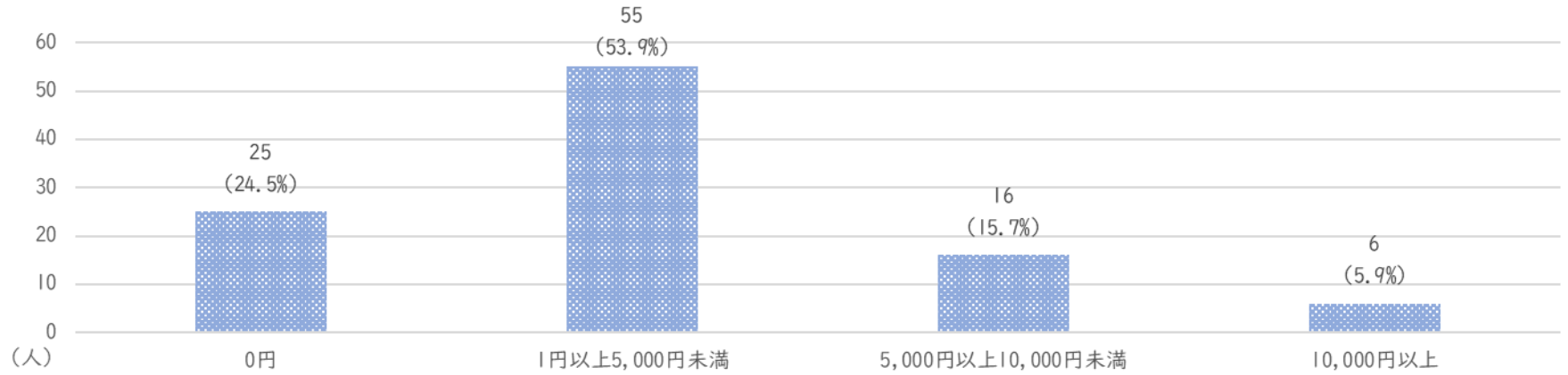


図16　民間施設利用にかかる交通費（／月）

☞ 「1円以上5,000円未満」が５割強で過半数を占めていた。

(n=120)　※「わからない」と回答した者を除く

［参考情報（交通費）］
・週４～５日利用平均≒6,436円　（有効回答43人）
・週２～５日利用平均≒5,762円　（有効回答74人）
・週１～５日利用平均≒5,150円　（有効回答97人）
・週２～３日利用平均≒4,827円　（有効回答31人）
・週１日利用平均　≒3,181円　（有効回答23人）
◎全体平均　≒4,897円　（有効回答120人）

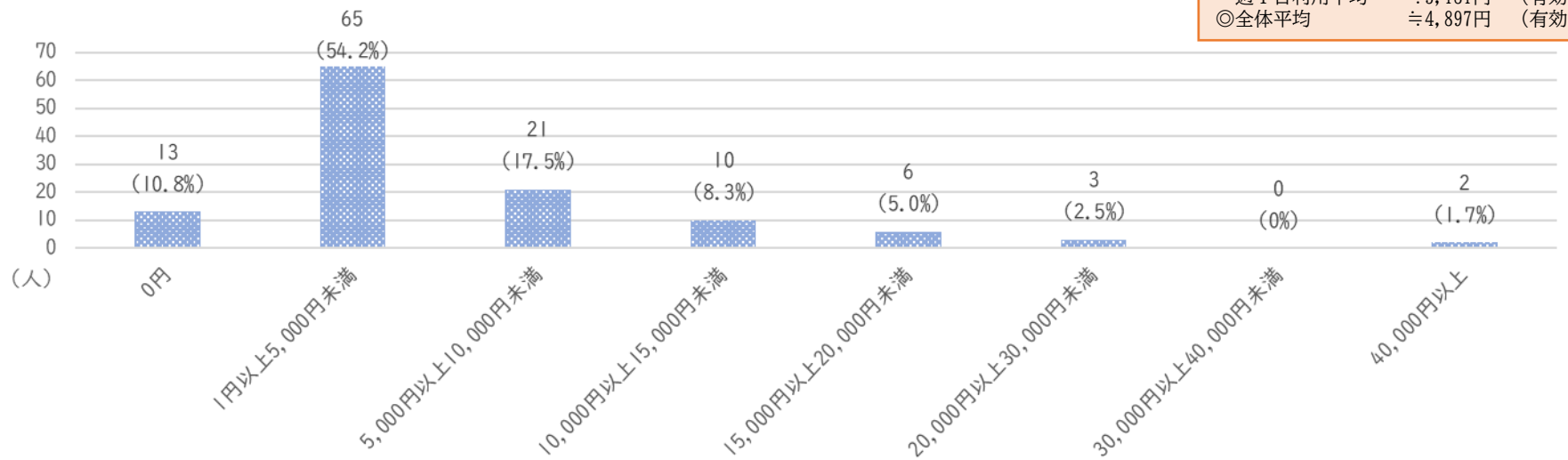


図17　民間施設利用にかかる活動費（図13, 14, 15, 16に該当しない）（／月）

☞ 「1円以上5,000円未満」が５割弱で最も多く、次いで「0円」３割弱となっている。

(n=60)　※「わからない」と回答した者を除く

［参考情報（その他）］
・週４～５日利用平均≒3,721円　（有効回答19人）
・週２～５日利用平均≒3,666円　（有効回答38人）
・週１～５日利用平均≒3,300円　（有効回答49人）
・週２～３日利用平均≒3,612円　（有効回答19人）
・週１日利用平均　≒2,036円　（有効回答11人）
◎全体平均　≒3,230円　（有効回答60人）

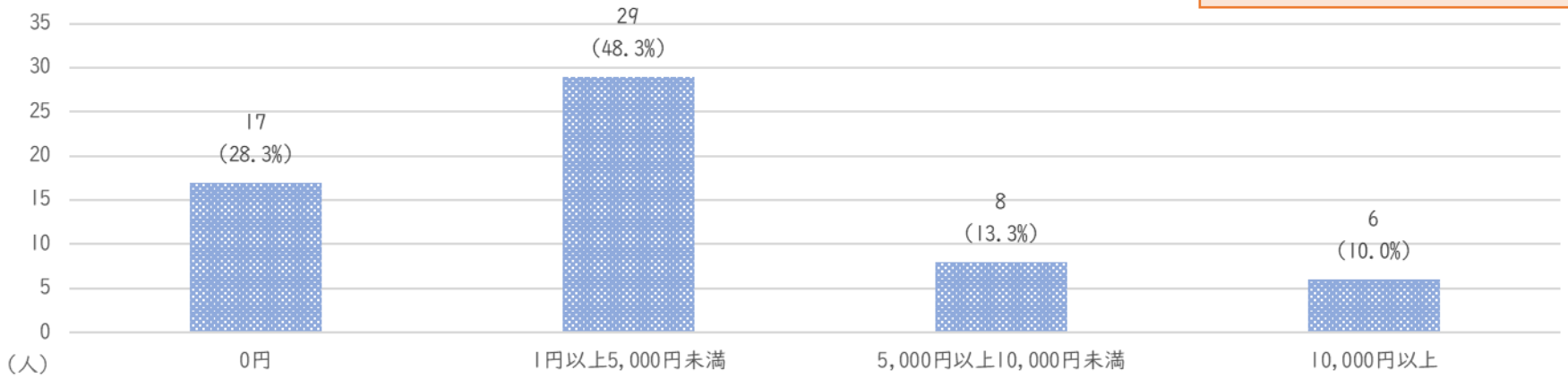


図18　世帯年収

☞ 「600万円以上800万円未満」「400万円以上600万円未満」２割強、「200万円以上400万円未満」２割弱となっている。

(n=161)

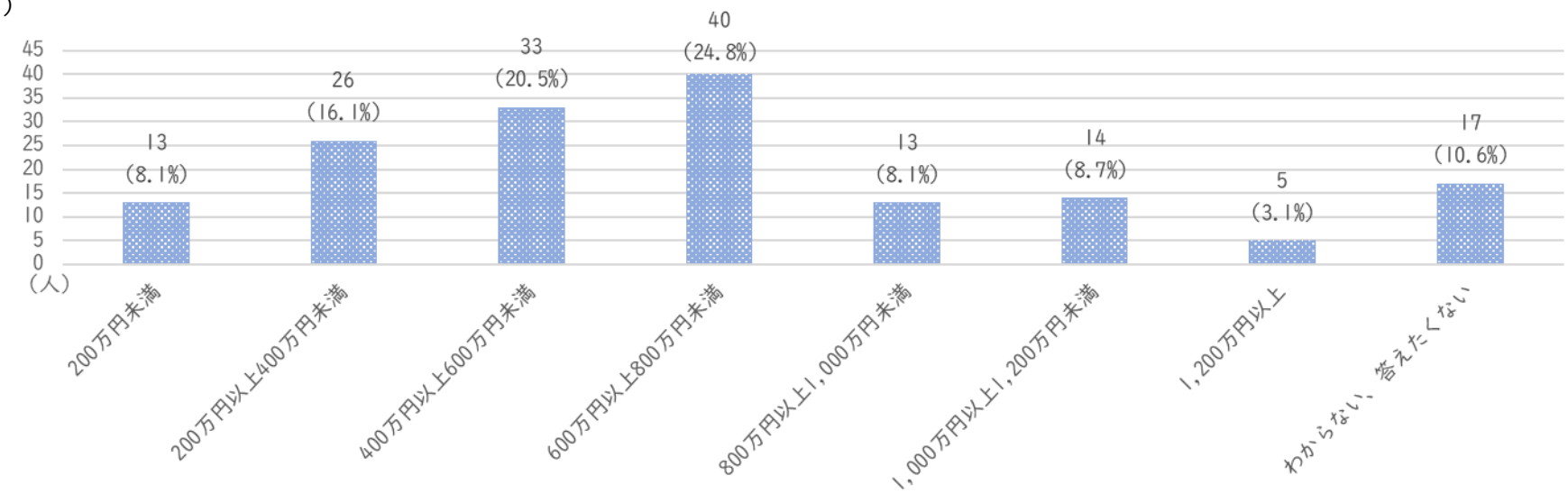


図19　休み始めたことによる世帯収入への影響

☞ 「収入が減った」約５割、「変わらない」４割強が回答。子に付き添う必要があるため、働き方への影響が収入に影響していることが回答からわかる。

（n=161）

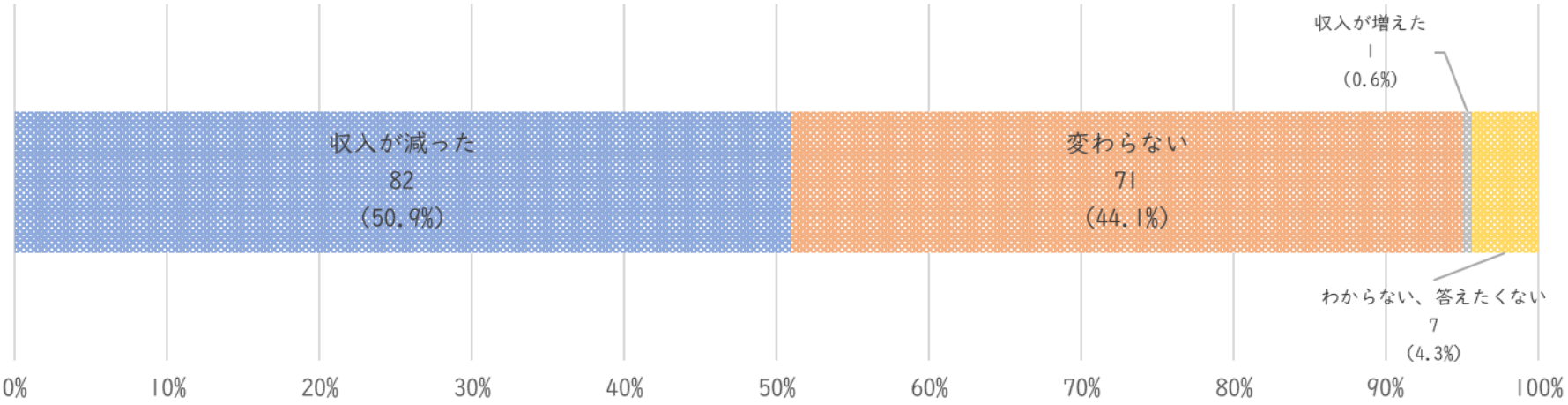


図20　世帯における最も収入が多い者

☞ 最も収入が多いのは「父親」９割弱であり、続いて「母親」１割弱となっている。

（n=161）

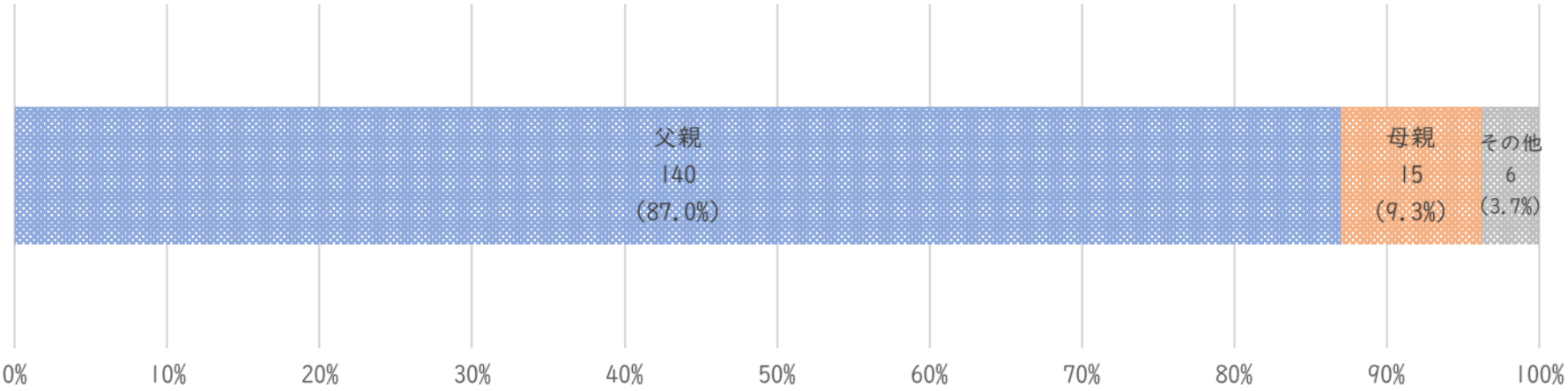


図21　（図20で回答された方について）その方の現在の就業形態

☞ 「正規従業員（フルタイム）」７割強、「自営業・自由業」２割弱、「非正規従業員」１割弱となっている。

(n=161)

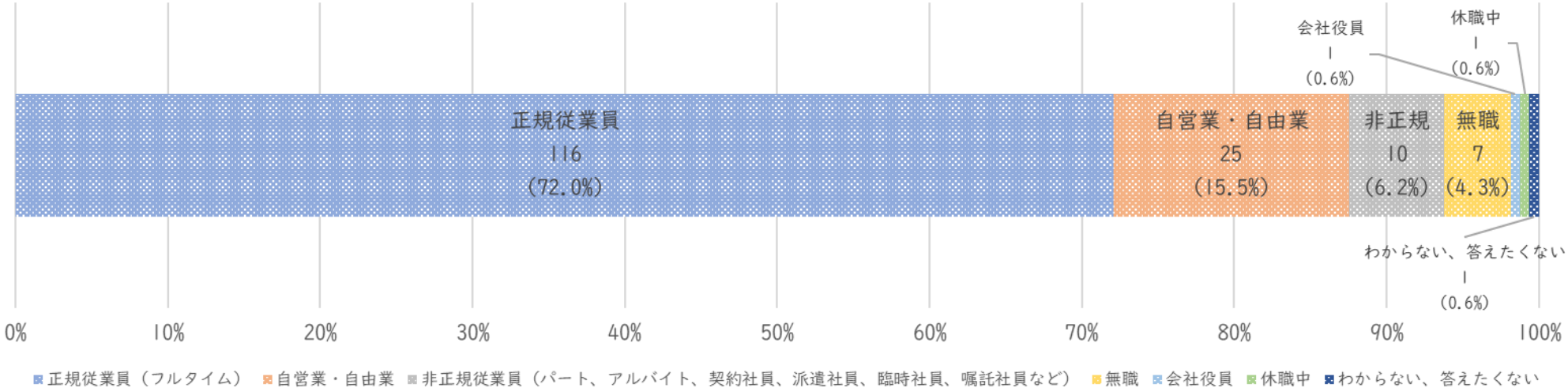


図22　（図20で回答された方について）学校を休み始めたことによる仕事への影響（複数回答）

☞ 「大きな影響はない」６割強と最も多い。一方で、「遅刻・早退・欠勤の増加」２割弱、「転職」「退職」も一定数いるなど、仕事に何らかの影響が生じている。

(n=161)

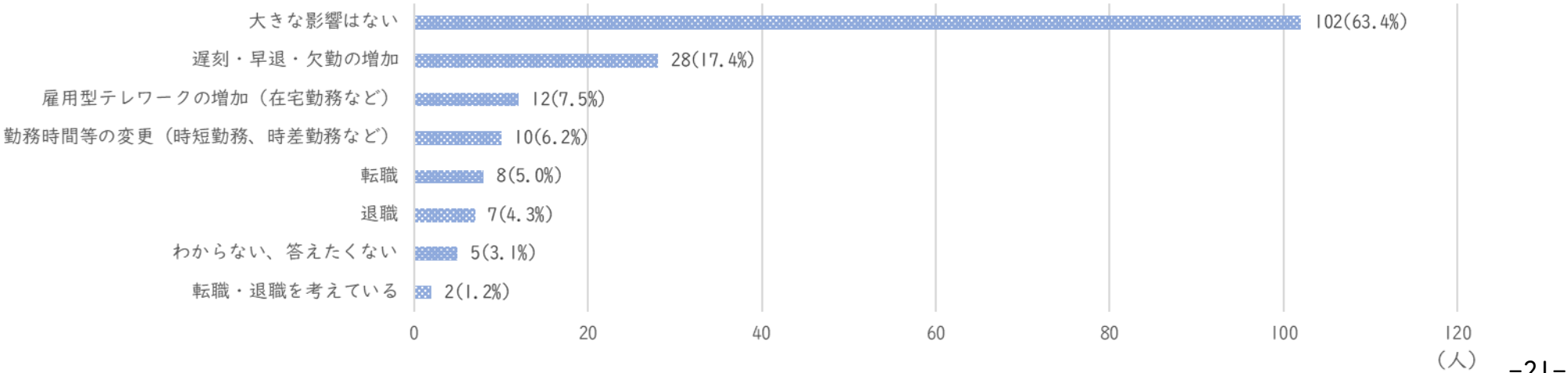


図23　世帯における２番目に収入が多い者

☞ ２番目に収入が多いのは「母親」７割強であり、次いで「該当者なし」２割強となっている。

(n=161)

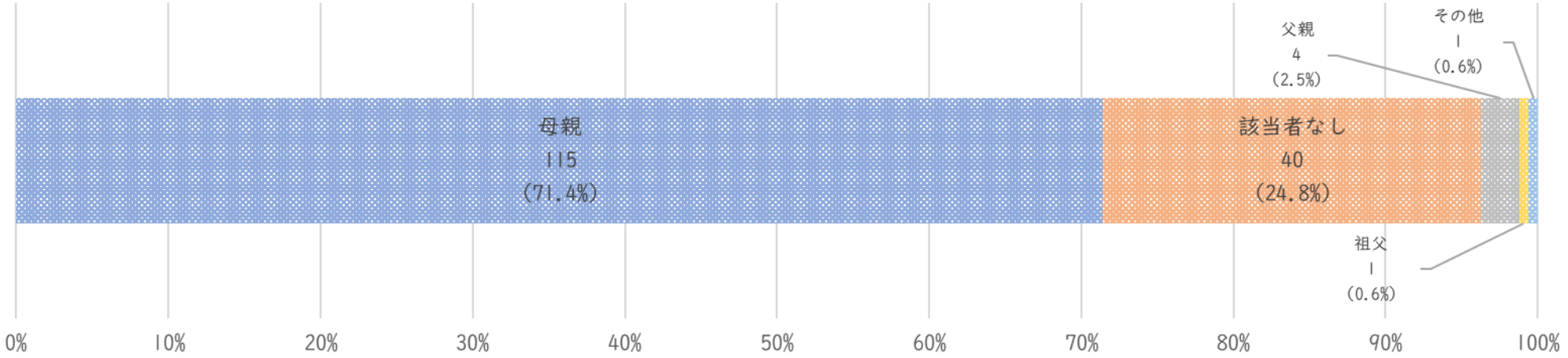


図24　(図23で回答された方について)その方の現在の就業形態

☞ 「非正規従業員」５割強、「自営業・自由業」２割弱、「正規従業員（フルタイム）」１割強となっている。

(n=121)

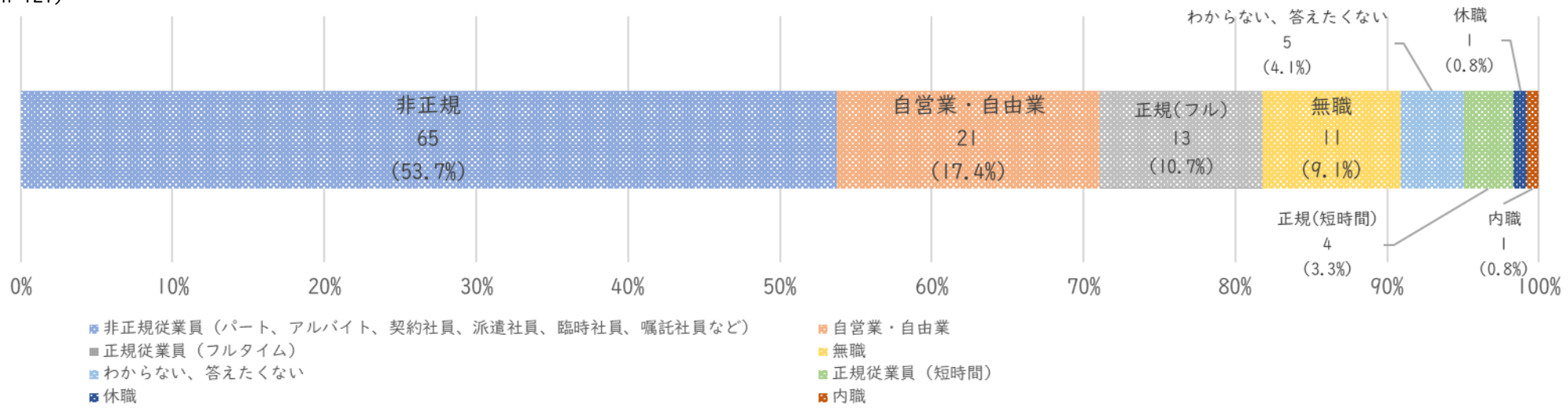


図25　（図23で回答された方について）学校を休み始めたことによる仕事への影響（複数回答）

☞ 「勤務時間等の変更」「遅刻・早退・欠勤の増加」４割弱、「退職」２割弱、「転職」１割弱などとなっており、父親よりも母親の方が働き方の調整をしていることがうかがえる。

(n=121)

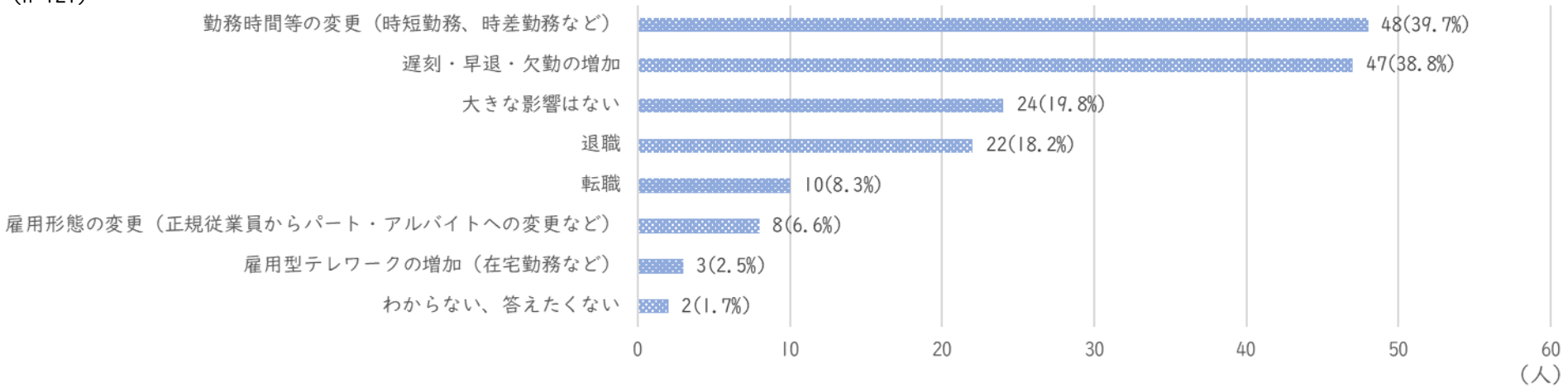


図26　フリースクール等民間施設を利用する上での負担（複数回答）

☞ 負担に感じていることとして「経済的負担」８割弱が最も多かった。次いで「送迎の負担」７割弱、「昼食の準備」４割強となっている。また「民間施設を利用したりしなかったり、子ども次第であるところ」４割弱、「フリースクール等民間施設利用時の付き添い」２割強であり、予定が立てづらいため負担と感じていることが読み取れる。

(n=161)

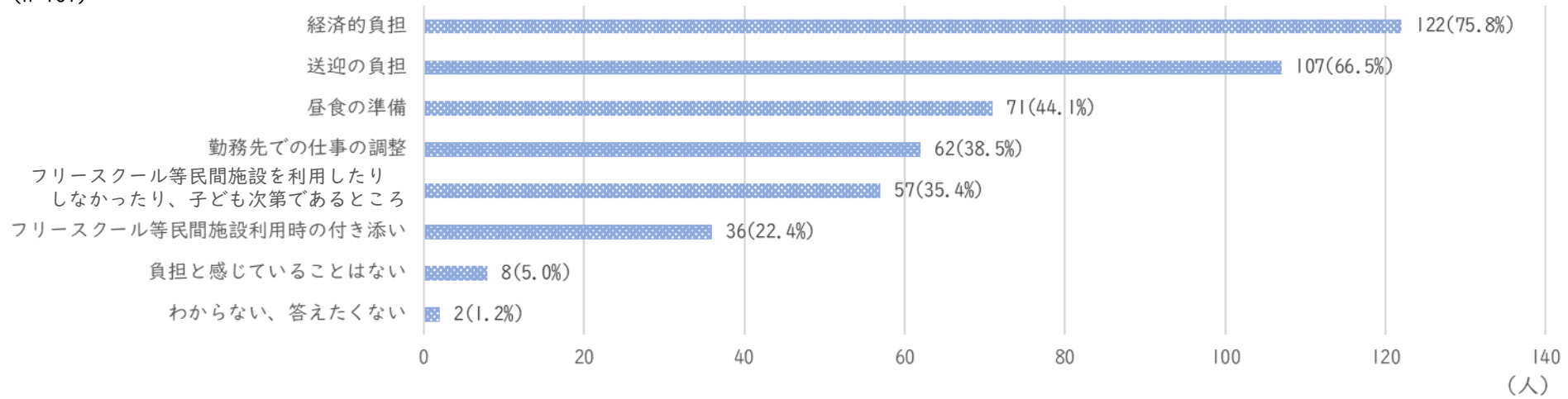


図27　学校を休み始めた際の保護者のイライラ度

☞ イライラが「増えた」７割弱と最も多く、「変わらない」３割弱となっている。

(n=161)

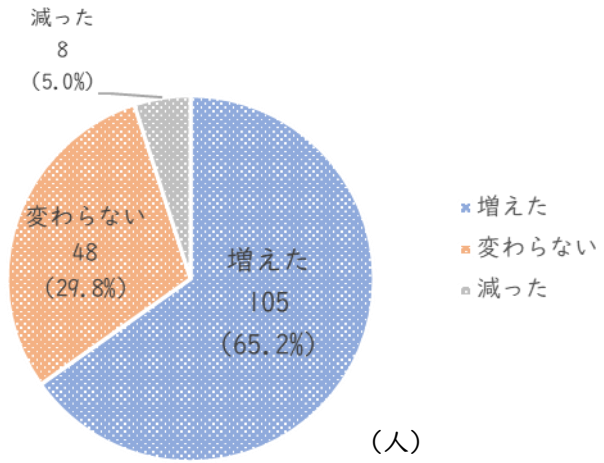


図28　学校を休み始めた際の保護者の孤独感・孤立感

☞ 孤独感・孤立感が「増えた」６割弱と最も多く、「変わらない」４割弱となっている。

(n=161)

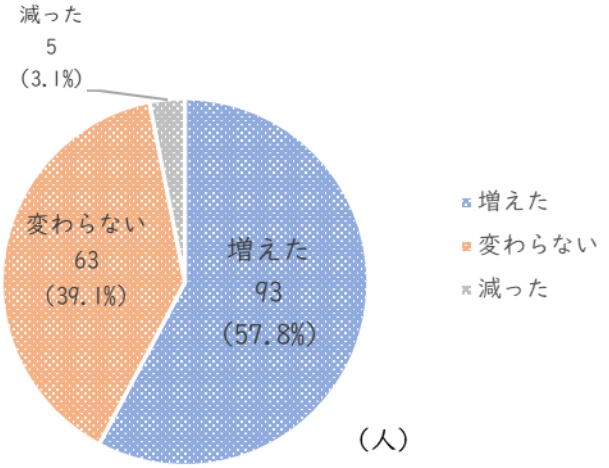


図29　学校を休み始めた際の保護者の落ち込んだり、自分を責めたりする機会

☞ 自責の念が「増えた」が７割弱と最も多く、「変わらない」３割弱となっている。

(n=161)

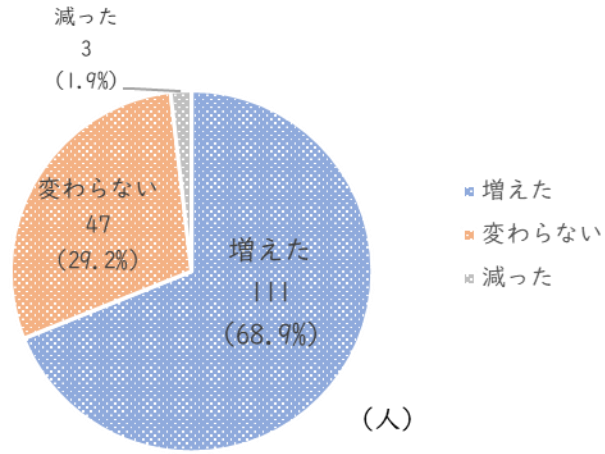


図30　学校を休み始めた際の保護者の食生活や生活リズム

☞ 食生活や生活リズムが不安定になることが「増えた」６割弱と最も多く、「変わらない」４割強となっている。

(n=161)

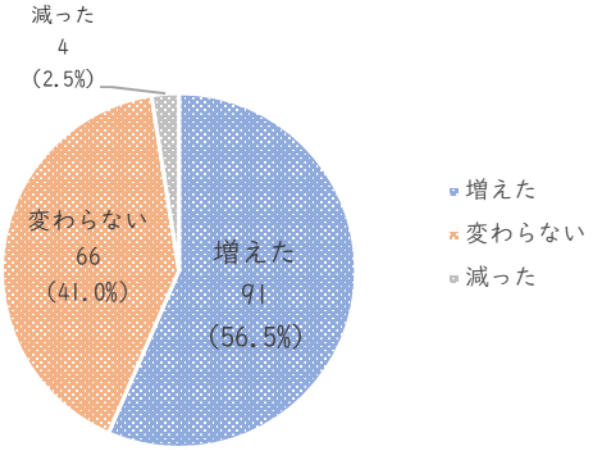


図31　学校を休み始めてからフリースクール等民間施設を利用するまでの、子・保護者の自宅での様子（自由回答）

（n=161）

【主な回答】

- 外出すること、誰かに会うことを怖がっていた。
- 将来や毎月の生活をしていけるか心配で、沈んだ雰囲気だった。
- 子の様子を見て、先の見えない不安を感じていた。
- イライラが増え、子に強く当たってしまうことが増えた。
- 精神的に不安定な状態が続いていた。
- 家の中でできることをやりつくし、家族だけの会話に退屈していた。
- 心を休ませるためにのんびり、マイペースに過ごした。
- 子に負担をかけないように、普段通りの生活を心がけていた。
- 子を一人にせず、一緒に行動するようにしていた。
- 子の状態に応じて、できるだけ外出もするようにしていた。
- インターネット、ゲーム、習い事など本人がしたいことをしていた。
- 学校の教科書や市販の教材を使って学習していた。

図32　学校を休み始めた際の相談相手（複数回答）

☞ 「家族・親族」「学校の担任の先生」７割弱、「SC、SSW」６割弱、「友人、知人」５割強となっている。「誰にも相談していない」１割弱であることから、ほとんどの保護者は誰かに相談し、助けを求めていることがわかる。

（n=161）

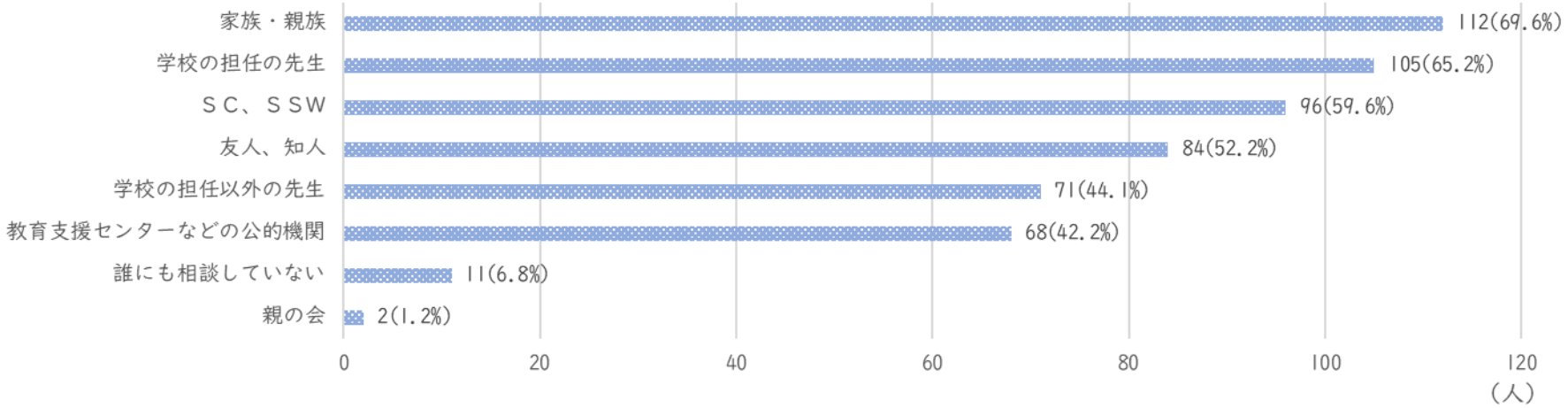


図33　求める公的支援【学校】（複数回答）

☞ 「フリースクール等民間施設の連携を深める」が８割弱と最も多く、次いで「学校において、教室以外の居場所（保健室など）を充実する」６割強、「オンライン授業を受けられるようにする」「学校の教員を増やす」５割弱となっている。その他「学校の制度やカリキュラムそのものの見直しが必要」が２割弱であった。

（n=161）

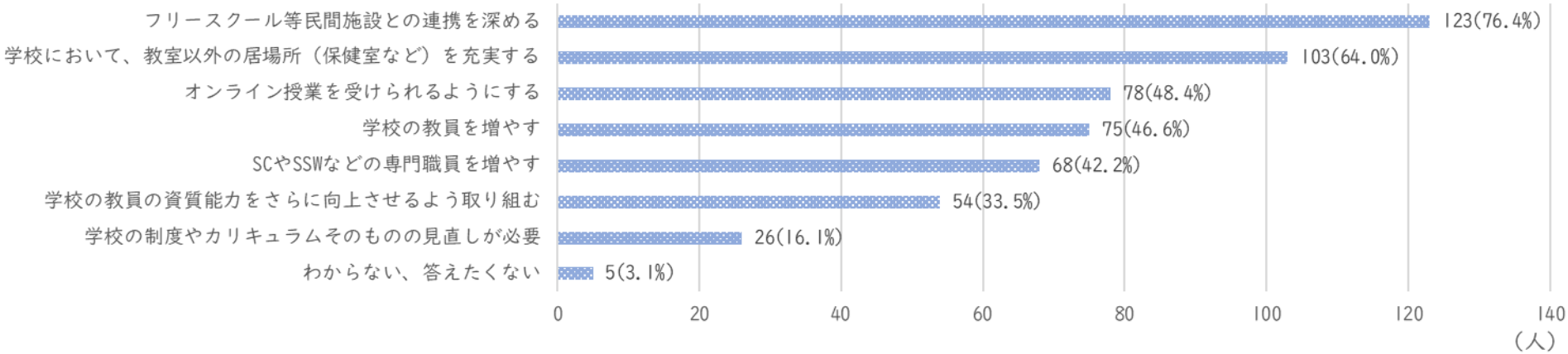


図34　求める公的支援【学校教員の資質能力】（複数回答）

☞ 「子どもの個性に合わせた生徒指導力」が７割強と最も多く、次いで「フリースクール等民間施設への理解」「特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応力」７割弱となっている。「求める資質能力は特にない」１割弱と少数であった。

(n=161)

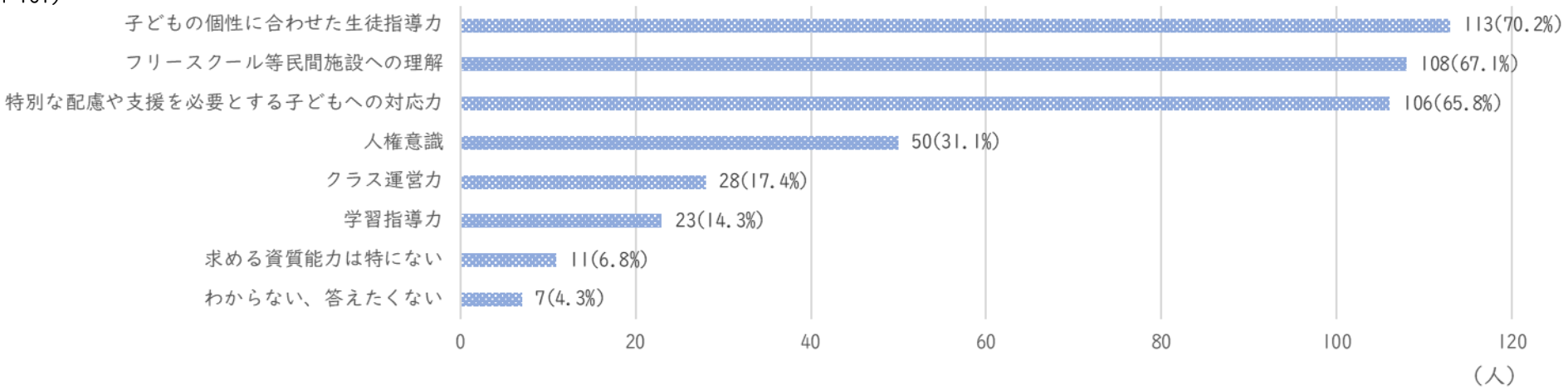


図35　求める公的支援【公的な施設や情報】（複数回答）

☞ 「フリースクール等民間施設の情報を集めやすくする」が８割強と最も多く、次いで「保護者同士が情報交換をしたり、交流したりする場を増やす」「教育支援センターを充実させる・増やす」５割強となっている。

(n=161)

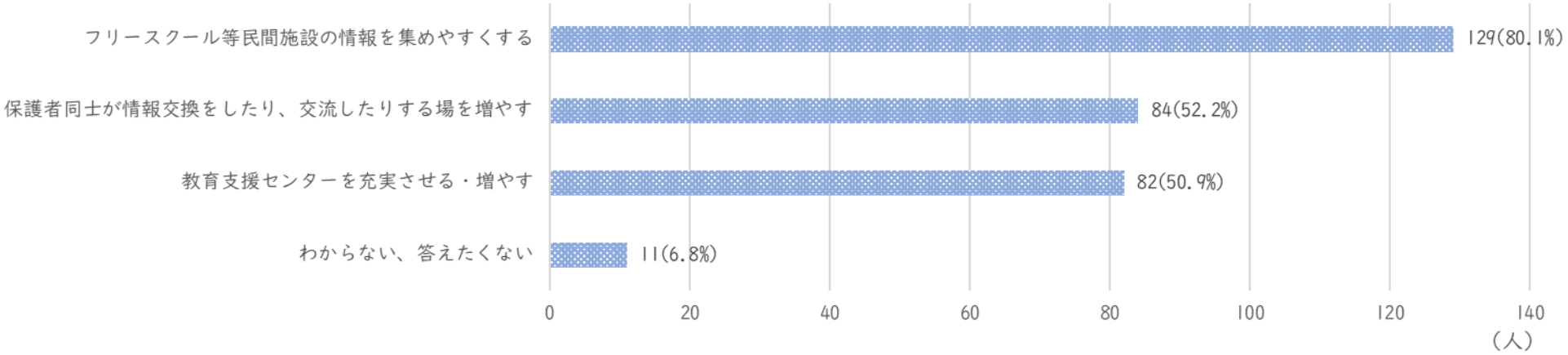


図36　求める公的支援【フリースクール等民間施設】（複数回答）

☞ 「フリースクール等民間施設の運営者に助成金を支給する」が約９割と最も多く、次いで「フリースクール等民間施設を利用する家庭に助成金を支給する」９割弱、「フリースクール等民間施設の環境整備を支援する」８割弱となっている。家庭、施設ともに経済的な負担感の軽減を求めていることがわかる。

（n=161）

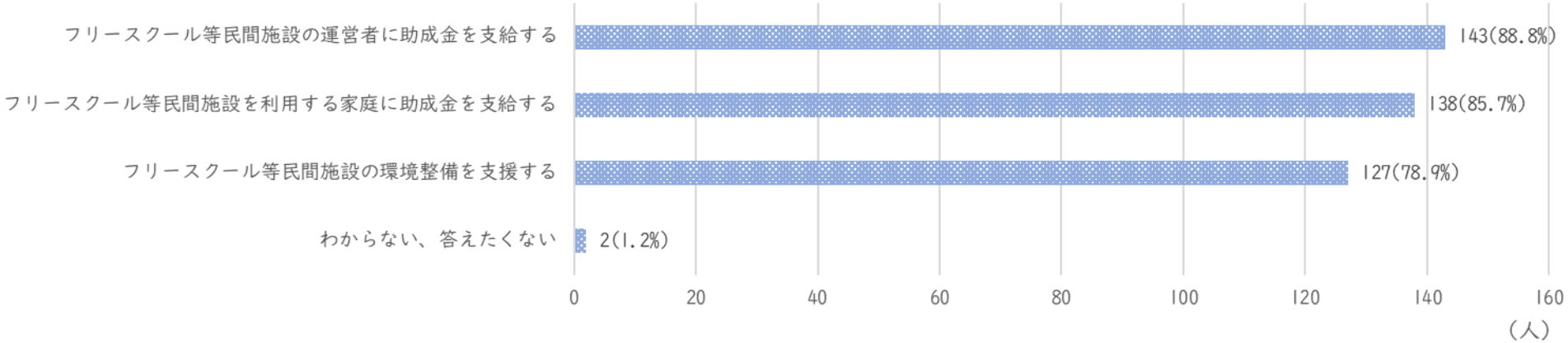


図37　利用している施設に限らず、一般的にフリースクール等民間施設に求めること（複数回答）

☞ 「利用料の軽減」が７割弱と最も多く、次いで「一人ひとりに寄り添った支援」６割強、「開設日数や時間の拡大」５割強となっている。経済面だけでなく、様々な面での充実を求めていることがわかる。

（n=161）

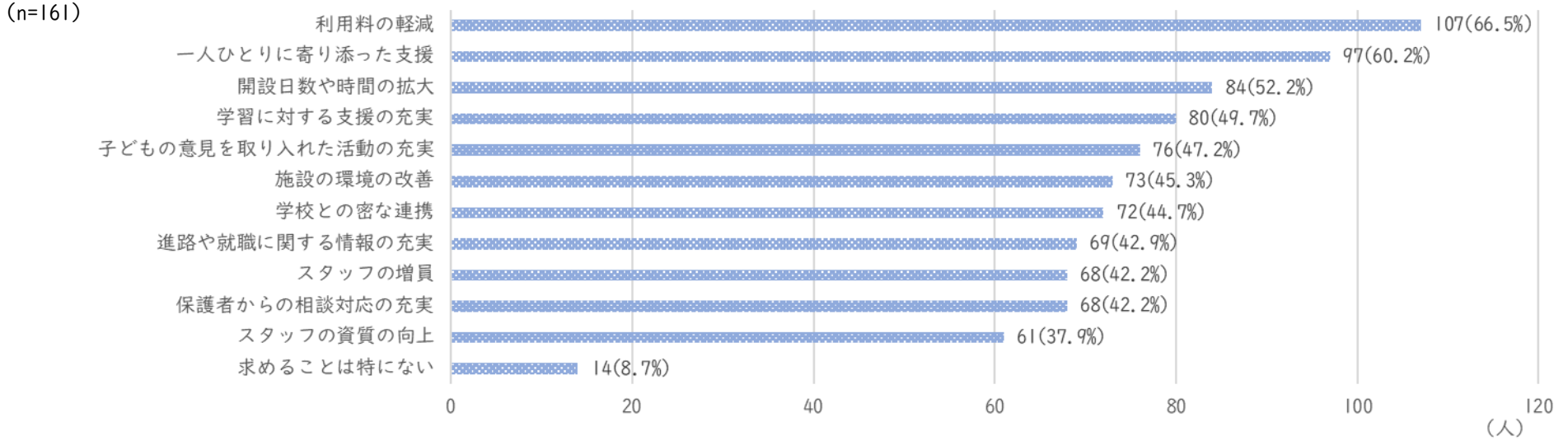


図38　学校の教室以外の居場所（校内教育支援センターや保健室など）の利用有無

☞ 「一度も利用したことがない」が４割強と最も多く、次いで「以前は利用していたが、今は利用していない」３割弱であった。７割強は現在利用しておらず、校内の居場所としての機能が発揮しきれていないことがうかがえる。

（n=161）

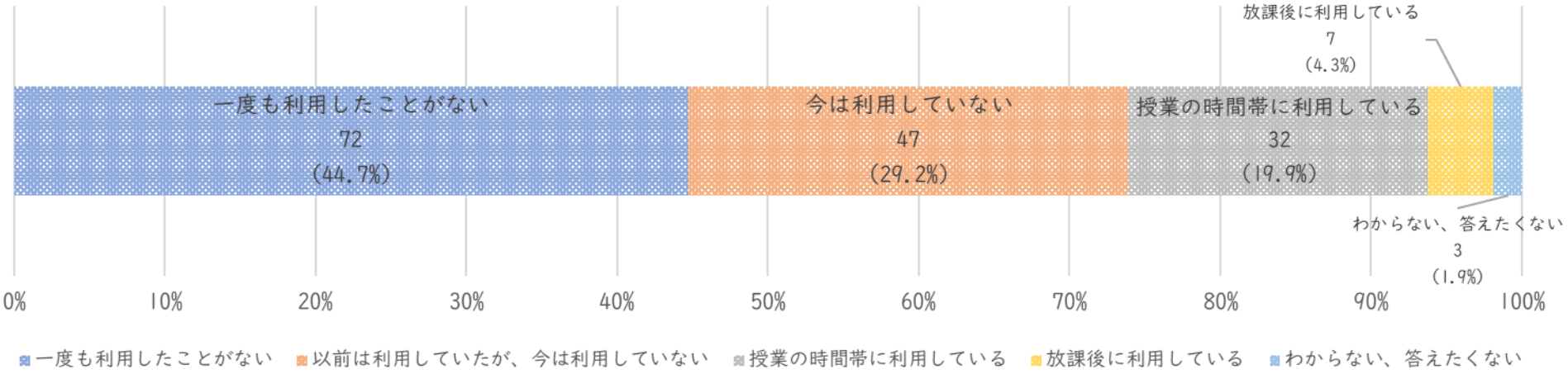


図39　スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの利用有無

☞ 「どちらも利用していない」が約５割と最も多く、「スクールカウンセラーを利用している」２割強、「スクールソーシャルワーカーを利用している」２割弱、「どちらも利用している」１割に満たない結果となっており、専門職の利用は約半数にとどまっている。

（n=161）

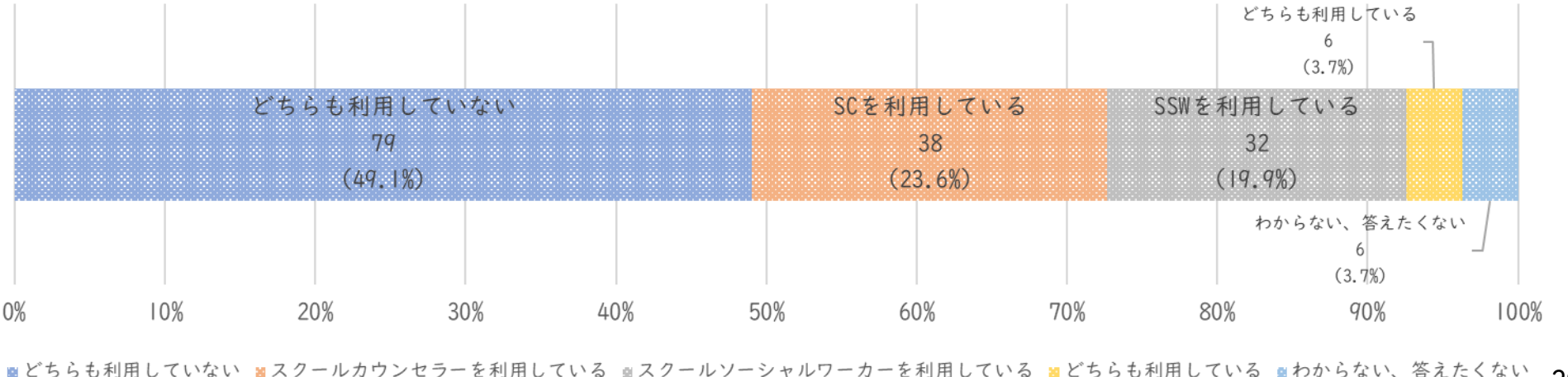


図40　教育支援センターの認知度

☞ 「よく知っている」が約５割と最も多いが、「聞いたことはあるが、どのようなところかは知らない」３割強、「知らない」２割弱であり、約半数がよく知らない状況にある。

(n=161)

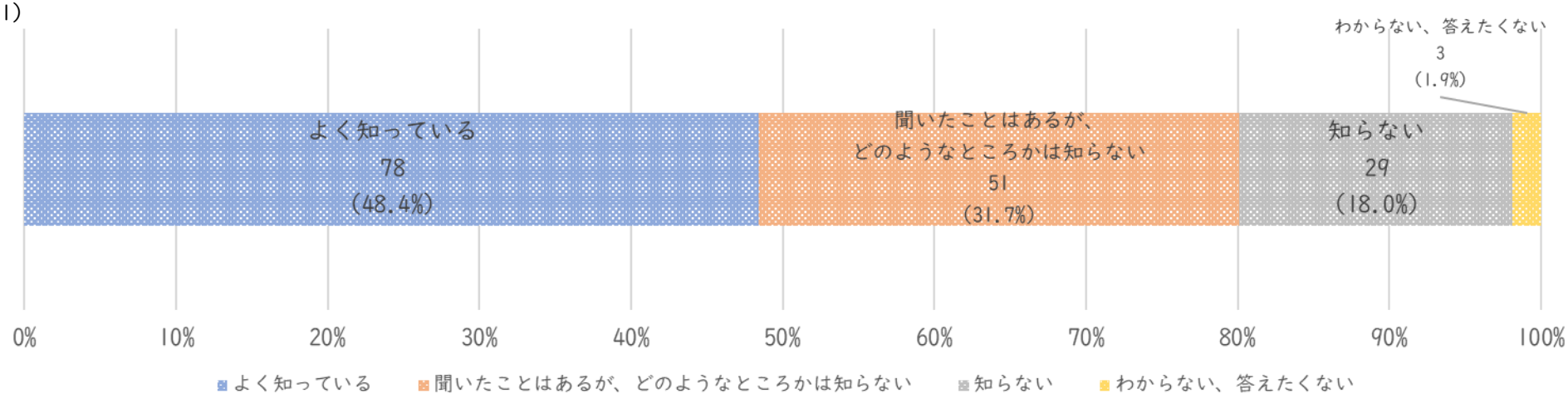


図41　(図40で「よく知っている」と回答された方について)教育支援センターの利用有無

☞ 「以前は利用していたが、今は利用していない」５割、「一度も利用したことがない」３割強であり、８割強が現在利用しておらず、教育支援センターを知っていても利用していない原因の解消が必要であると考えられる。

(n=78)

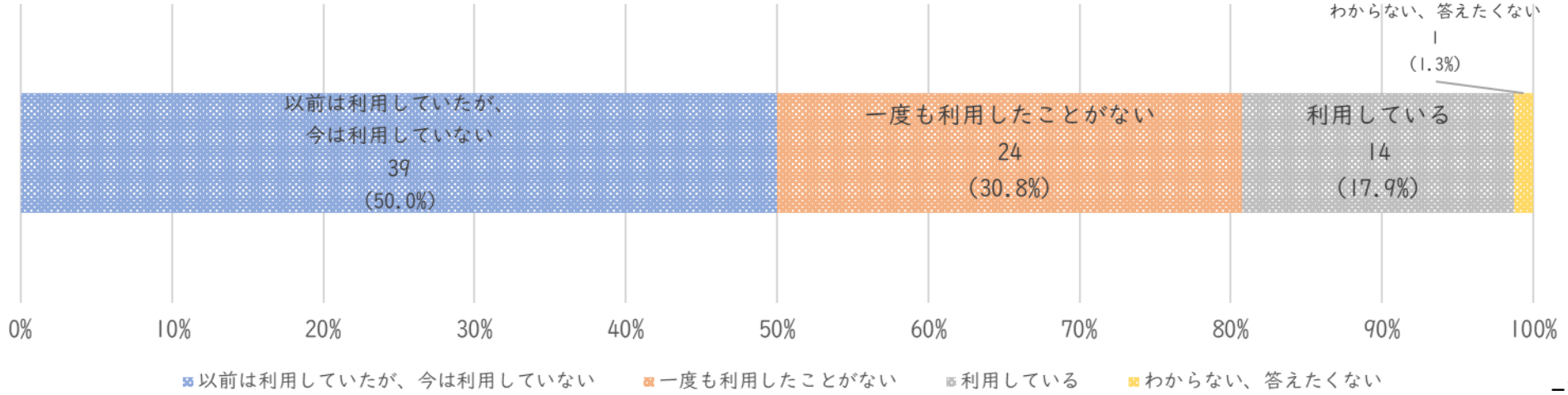


図42　（図41で「利用している」と回答された方について）教育支援センターの利用理由（複数回答）

☞ 教育支援センターを「利用している」人に限定してその理由について尋ねたところ、「費用がかからないから」７割強と、経済的な理由によるものが多くを占めた。

（n=14）

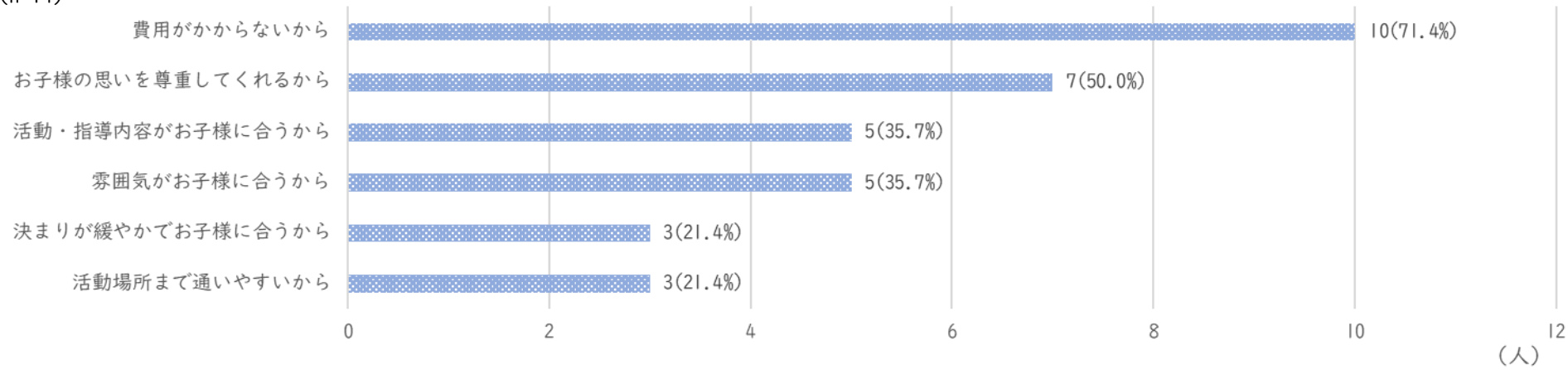


図43　（図41で「利用している」と回答された方について）教育支援センターへの要望（自由回答）

（n=14）

- 開所時間帯を長くしてほしい。小中で週二ずつ（火木・月金）は仕方がないとして、せめて15時まで開放されていると保護者の方も時間が確保できてありがたい。パートで働ける。
- 個別利用を週1以上可能にして欲しい。
- 午前中しかやっていない日があるので午後からの時間帯も開いていると通いやすい。
- 今は通っているが今後家に来てもらう形も考えているので相談させてもらいたい。
- 仕事をしているので、送迎が出来るような時間帯まで居られるようにして欲しい。
- 時間を長くして欲しい。
- 特性のある子どもへの対応を、先生がもっと学んで欲しい。

図44　（図41で「今は利用していない」「利用したことがない」と回答された方について）教育支援センターを利用していない理由（複数回答）

☞ 教育支援センターを「利用していない」人に限定してその理由について尋ねたところ、「お子様が利用したがらないから」７割強と最も多く、次いで「雰囲気がお子様に合わないから」５割弱、「活動・指導内容がお子様に合わないから」４割強となっている。子どもにとって魅力ある施設にする必要があることがわかる。

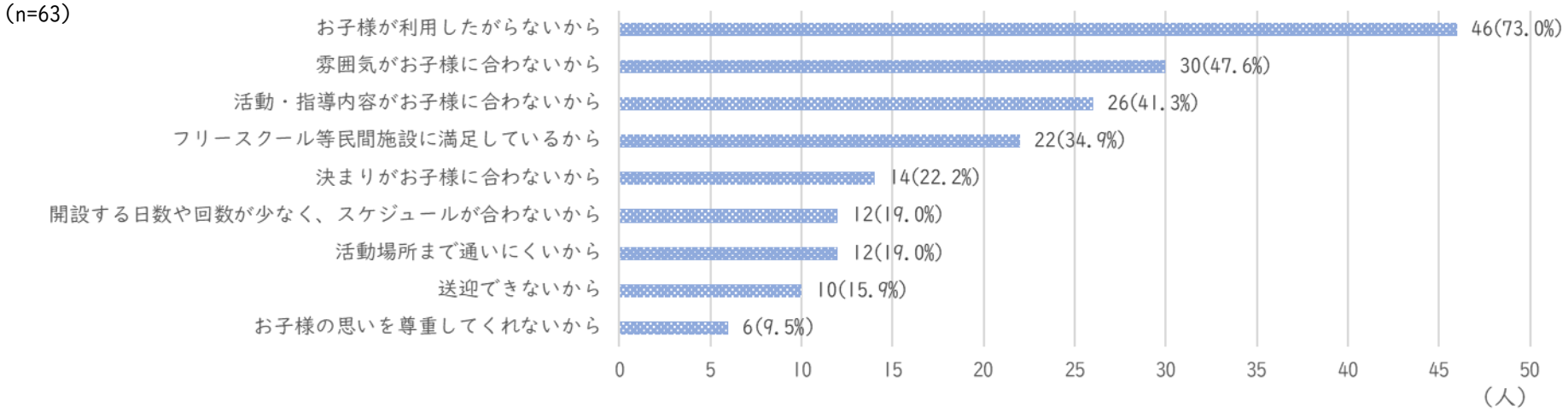


図45　（図40で「聞いたことはあるが、どのようなところかは知らない」「知らない」と回答された方について）今後の教育支援センターの利用意向

☞ 教育支援センターを「よく知らない」人に限定してお住まいの地域にある教育支援センターの利用について尋ねたところ、「わからない、答えたくない」が４割強と最も多く、次いで「利用してみようと思わない」４割弱、「利用してみようと思う」２割強となっている。教育支援センターを利用したいと思っている人は少数である。

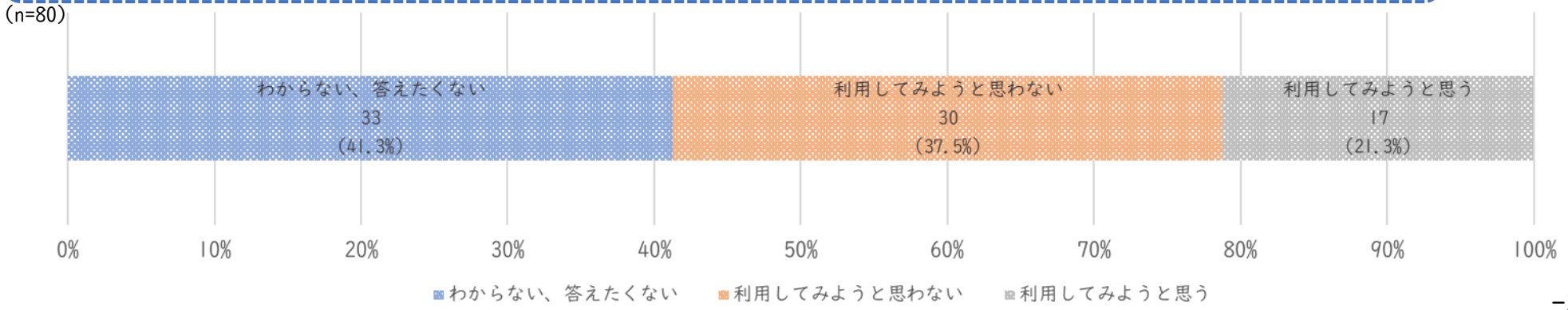


図46　（図45で「利用してみようと思う」と回答された方について）教育支援センターを利用してようと思う理由（複数回答）

☞ 教育支援センターを「よく知らない」が「利用してみようと思う」と回答した人に限定してその理由を尋ねたところ、「費用がかからないから」４割弱と経済的な理由が最も多く、次いで「お子様の思いを尊重してくれそうだから」３割弱となっている。

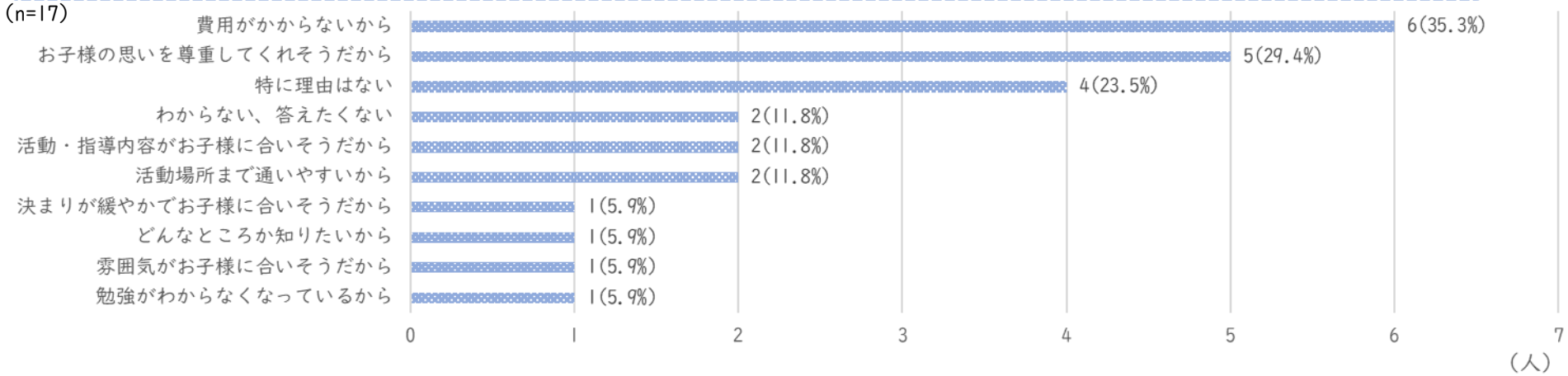


図47　（図45で「利用してみようと思わない」と回答された方について）教育支援センターを利用してようと思わない理由（複数回答）

☞ 教育支援センターを「よく知ら」ず「利用してみようと思わない」と回答した人に限定してその理由を尋ねたところ、「お子様が利用したがらない」５割と最も多く、次いで「フリースクール等民間施設に満足している」５割弱、「雰囲気がお子様に合わなさそう」４割弱となっている。子どもにとって魅力ある施設にする必要があることがわかる。

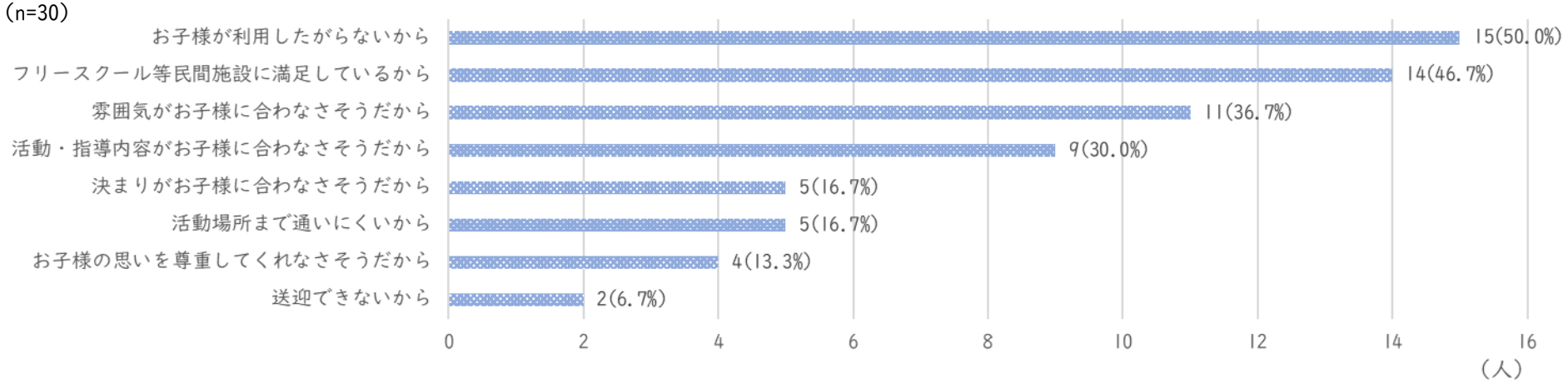


図48　教育機会確保法の認知度

☞ 「よく知っている」が４割強と最も多いが、「知らない」３割強、「聞いたことはあるが内容は知らない」２割強と、半数以上がよく知らない。

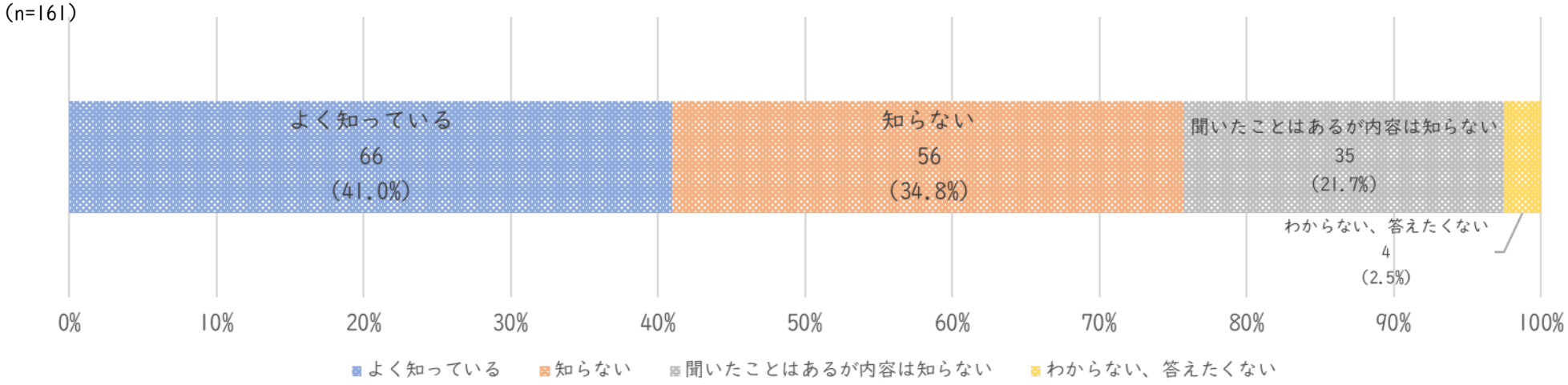
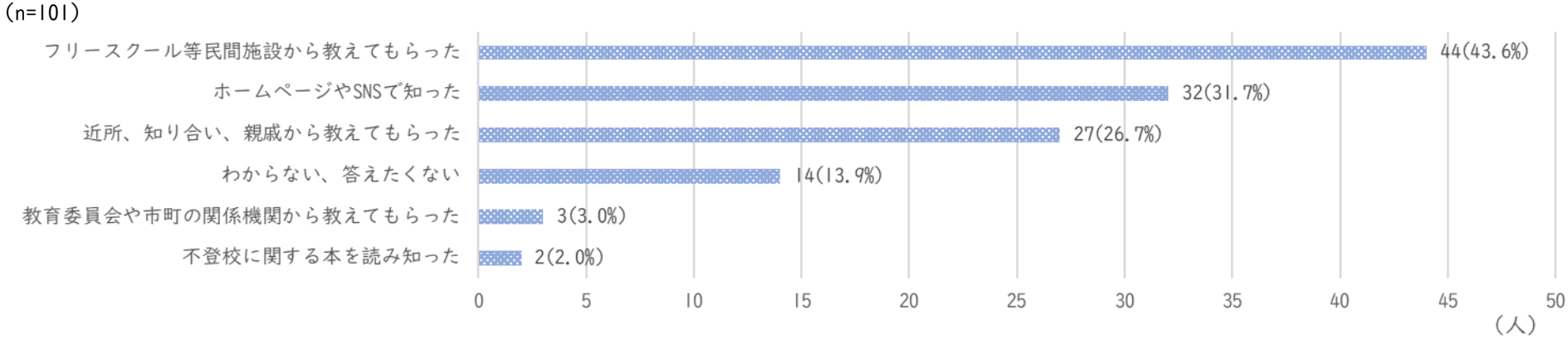


図49　（図48で「よく知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答された方について）教育機会確保法の情報入手経路（複数回答）

☞ 教育機会確保法を「よく知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した人に限定してどこで知ったかを尋ねたところ、「フリースクール等民間施設から教えてもらった」４割強と最も多く、次いで「ホームページやSNSで知った」３割強、「近所、知り合い、親戚から教えてもらった」３割弱となっている。一方で、「教育委員会や市町の関係機関から教えてもらった」は１割に満たない結果にとどまっている。



アンケート調査結果（追加アンケート）

図50　小学校入学前の利用施設

☞ 利用されていた施設について、「認定こども園」約３割と最も多く、次いで「保育所（園）」３割弱、「幼稚園」２割強となっている。

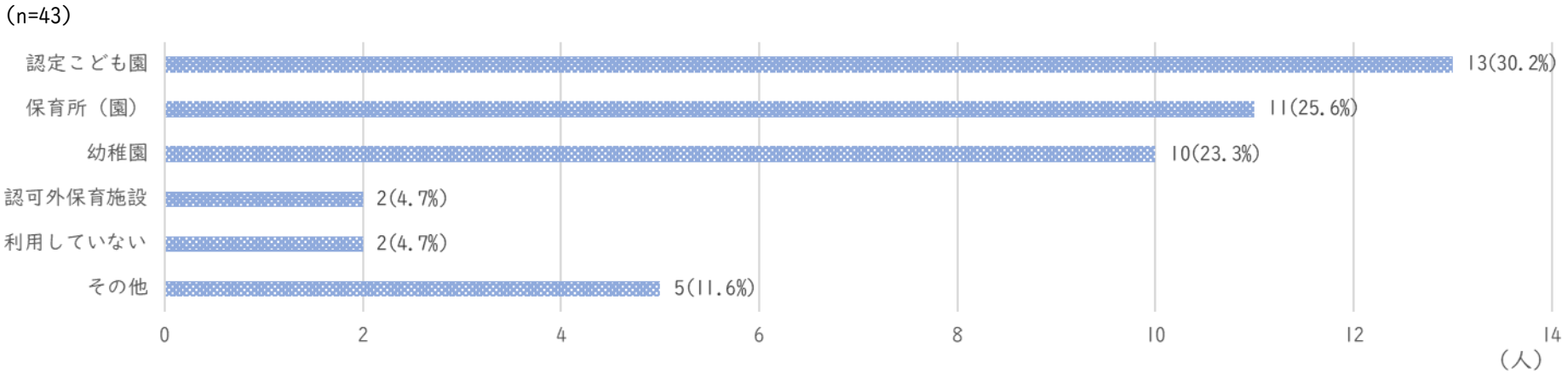


図51　（図50で「いずれかの施設を利用している」と回答された方について）利用していた施設が小学校の学区内にあるか

☞ 小学校入学前に「いずれかの施設を利用している」人に限定して、利用されていた施設が在籍している小学校の学区内にあるか尋ねたところ、「はい」５割強で半数以上となっている。

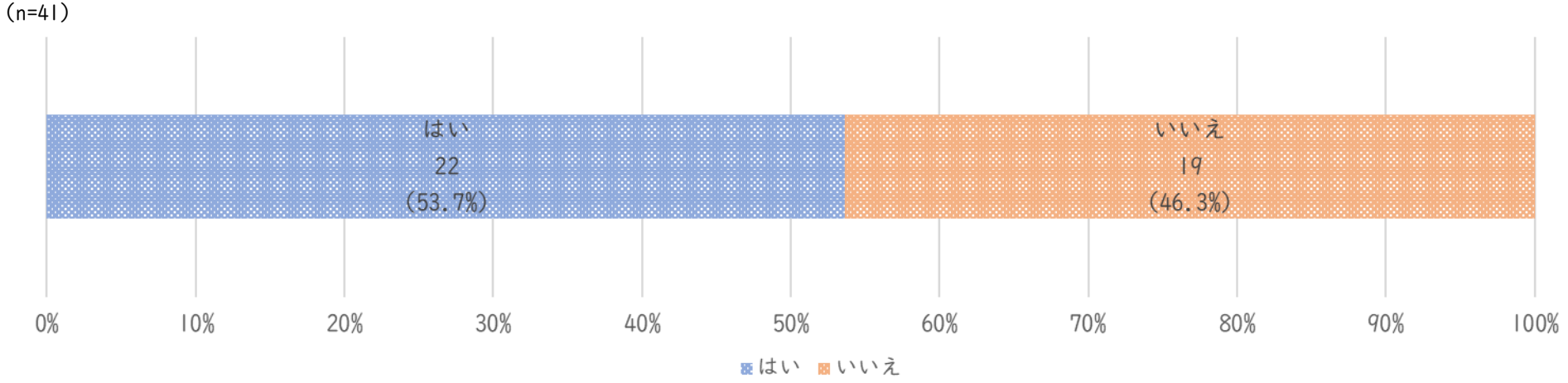


図52　（図50で「いずれかの施設を利用している」と回答された方について）
小学校入学前の登園渋りの有無

☞ 小学校入学前に「いずれかの施設を利用している」人に限定して、利用されていた施設で登園を渋ることがあったか尋ねたところ、「あった」６割強、「なかった」３割強となっている。幼児教育・保育からの学習環境の変化だけでなく、小学校入学前の何らかの要因が影響している。

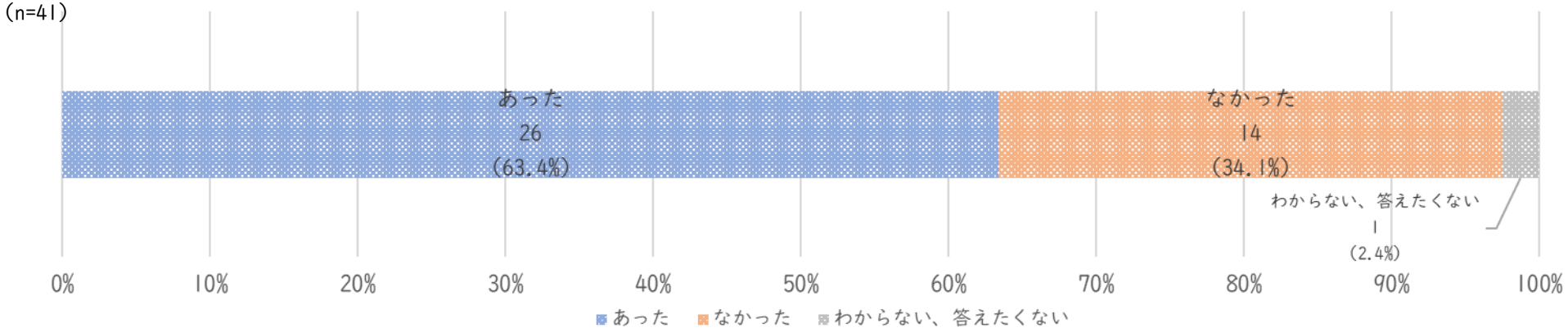


図53　（図50で「いずれかの施設を利用している」と回答された方について）
小学校入学前の登園渋りの要因（自由回答）

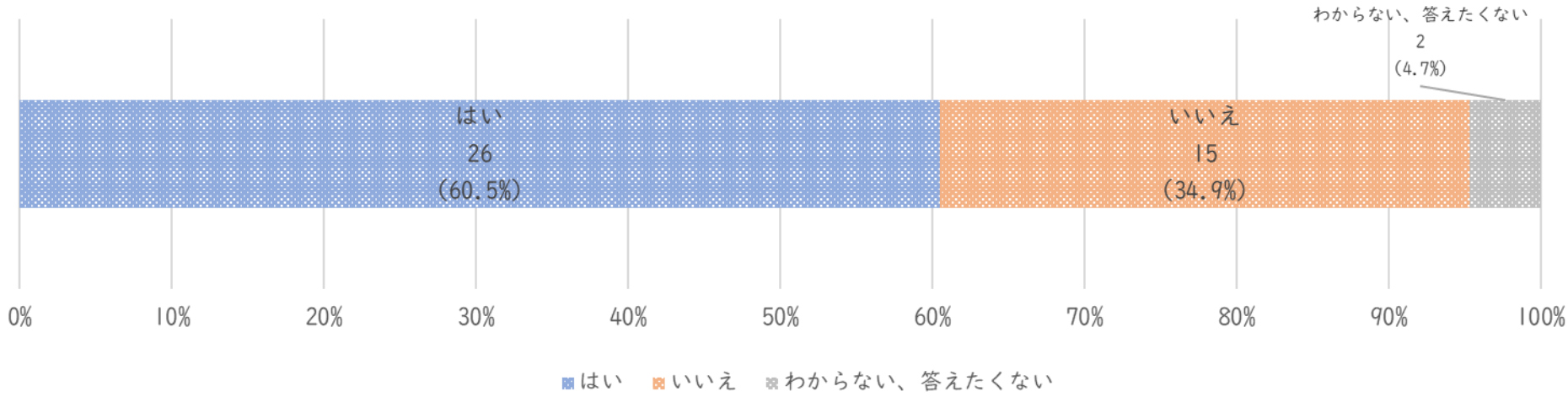
(n=41)

- 親と離れるのがいやだったから。
- 子どもがやりたいことと園やクラスの取組との相違があったから。
- 子どもが安心できる場所、環境ではなかったから。
- 行事のプレッシャーがあったから。
- 集団の中にいることへの緊張があったから。
- 親が精神的に不安定だったから。

図54　小学校入学時の就学前からの友達の有無

☞ **就学前からの友達が学校にいたかについて、「はい」６割強、「いいえ」３割強となっている。**

(n=43)



アンケート調査結果（毎月アンケート）

集計上の注意

各月の回答者数

集計には各月で回答があった回答者をすべて用いている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
n	91	94	101	102	114	137	151	160	160	156	160	104

単一回答と複数回答の割合表示についての補足

・単一回答項目は各月の合計は100%になる。
・複数回答項目は各月の合計は100%を超えることがある。

図55　学校との話の有無

☞ ４月に新学期を迎え、保護者が学校と話をしたかどうかについて、「面談等、直接会って話をした」、「直接会ったり、電話をしたりして話をした」が多かった。話をしていない、もしくは電話で話をしたのは８月に多かった。

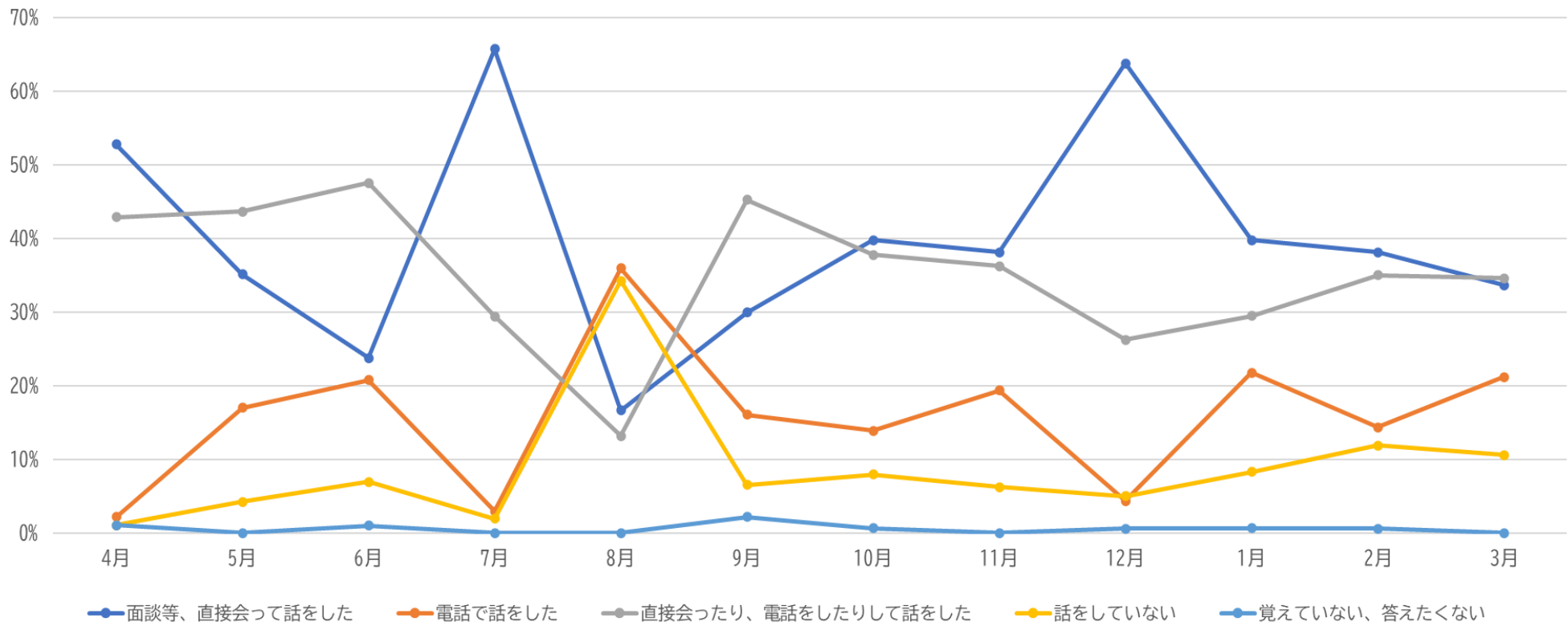


図56　（図55で「直接会って話をした」「電話で話をした」と回答された方について）
話し相手（複数回答）

☞ 「直接会って話をした」「電話で話をした」相手は、１年を通してほとんどが「担任の先生」であり、次いで「担任以外の先生」となっている。一方、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談は１年を通して少なかった。担任への連絡が集中しているため、保護者の孤立感や不安感、子どもの様子についての相談は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへ直接相談できることが期待される。

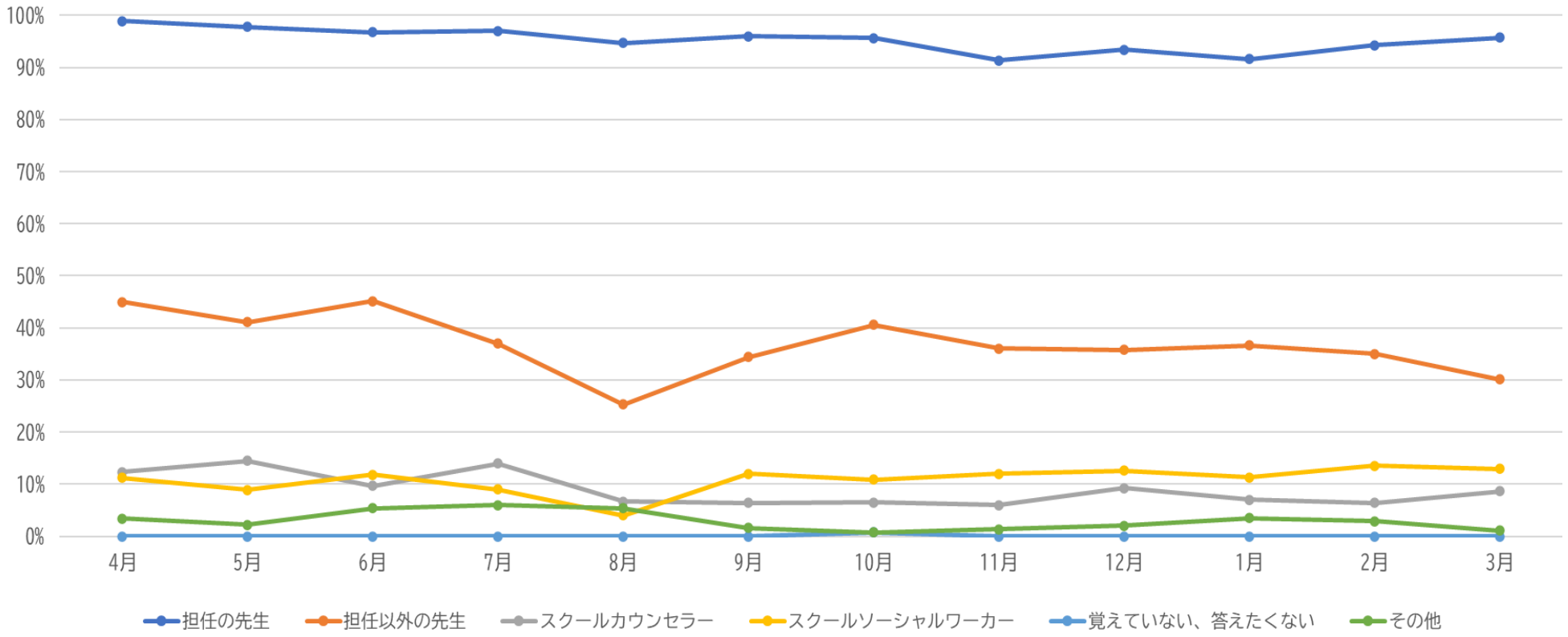


図57　（図55で「直接会って話をした」「電話で話をした」と回答された方について）
話の内容（複数回答）

☞ 担任の先生や担任以外の先生と保護者が話した内容は多様であり、子どもの体調、生活リズム、学習状況などの状況や学校行事、登校についてなどが多い。

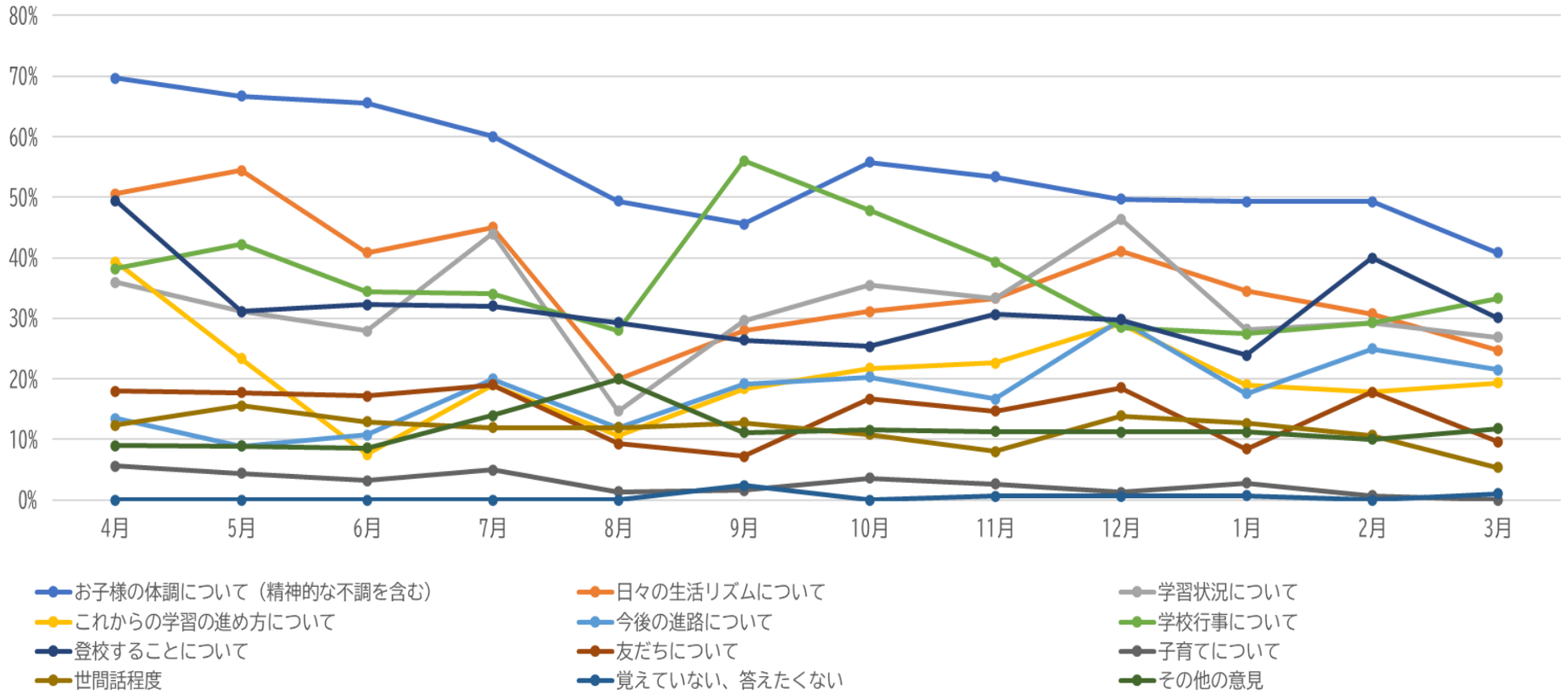
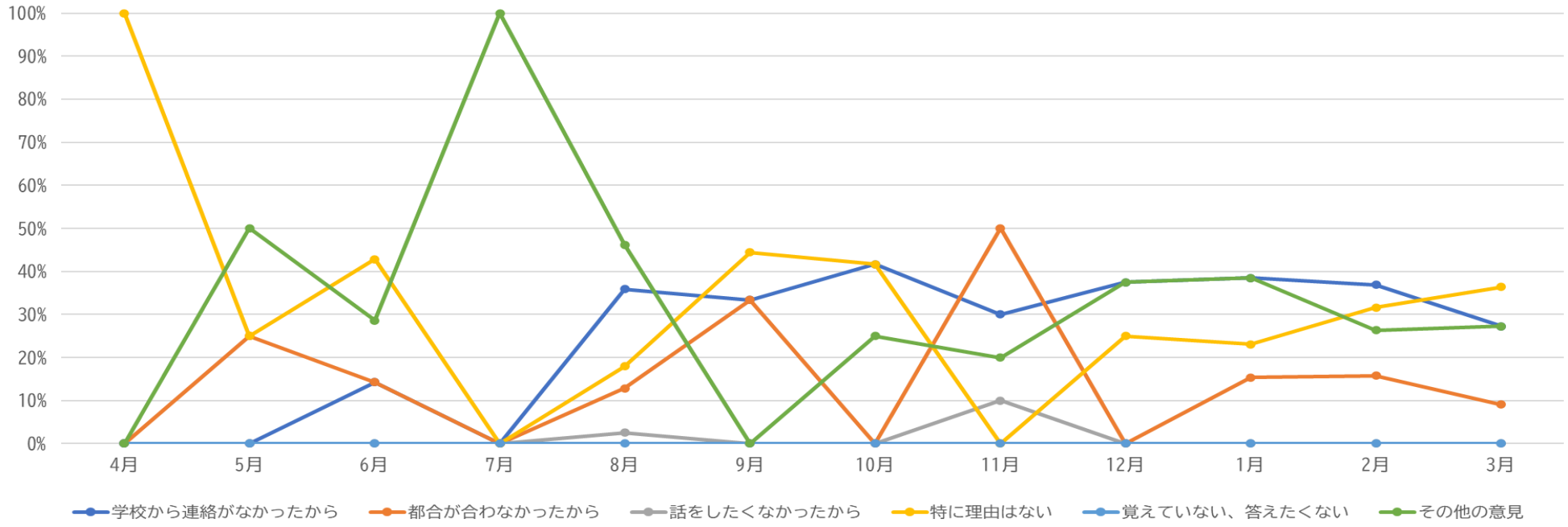


図58 （図55で「話をしていない」と回答された方について）
話をしなかった理由（複数回答）

☞ 「話をしていない」人に限定すると、その理由は月によって異なるが、そもそも「話をしていない」と回答している回答者数がかなり少ないため（下表参照）、解釈には注意が必要である。



（参考：回答者数）

	学校から連絡がなかったから	都合が合わなかったから	話をしたくなかったから	特に理由はない	覚えていない、答えたくない	その他の意見
4月	0	0	0	1	0	0
5月	0	1	0	1	0	2
6月	1	1	0	3	0	2
7月	0	0	0	0	0	2
8月	14	5	1	7	0	18
9月	3	3	0	4	0	0
10月	5	0	0	5	0	3
11月	3	5	1	0	0	2
12月	3	0	0	2	0	3
1月	5	2	0	3	0	5
2月	7	3	0	6	0	5
3月	3	1	0	4	0	3

図59　登校した日数

☞ １年間を通して、「１～５日登校している」と「登校していない」が多く、どの月が特に登校をしているなどの特徴的な傾向はみられない。

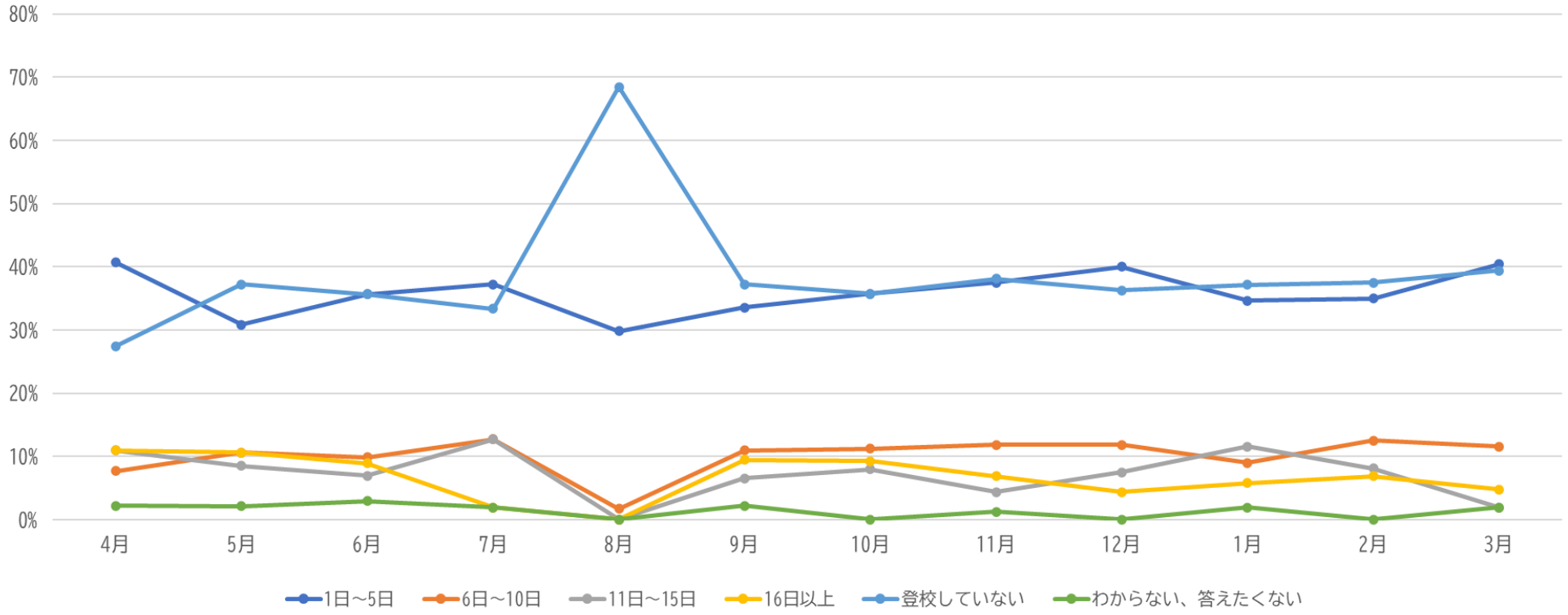


図60　（図59で「１日以上」と回答された方について）
登校場所（複数回答）

☞ 「登校した場所」については、４月では「お子様のクラス」が多いが、月日が経つにつれて、クラスではなく「お子様のクラス以外の別室」や「放課後登校」が多くなる傾向になっている。

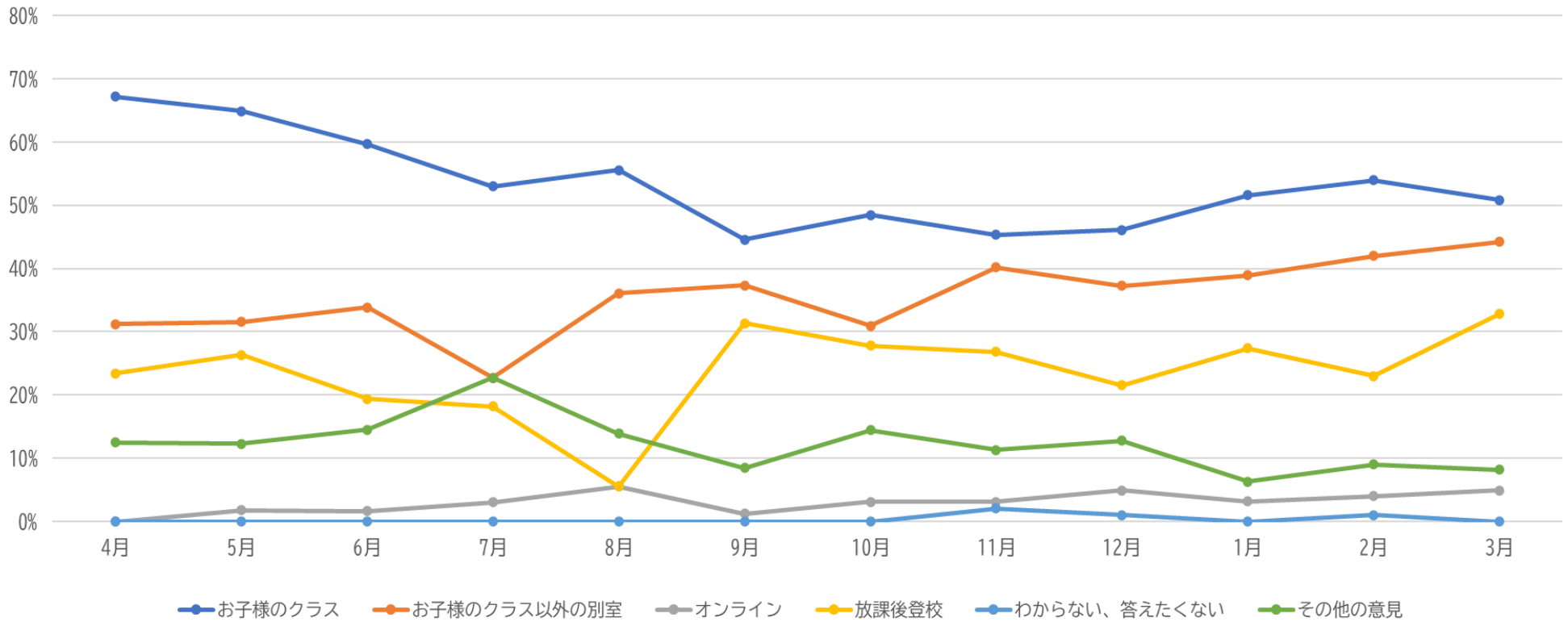


図61　（図59で「１日以上」と回答された方について）
登校できた理由（複数回答）

☞ 「登校できた理由」については、「学校の先生からの声かけ」を中心に「その日は登校する気になった」という本人の意思もあった。その他、「家族からの声かけ」や「友だちからの声かけ」「学校行事に参加したかったから」など登校のきっかけになっている。

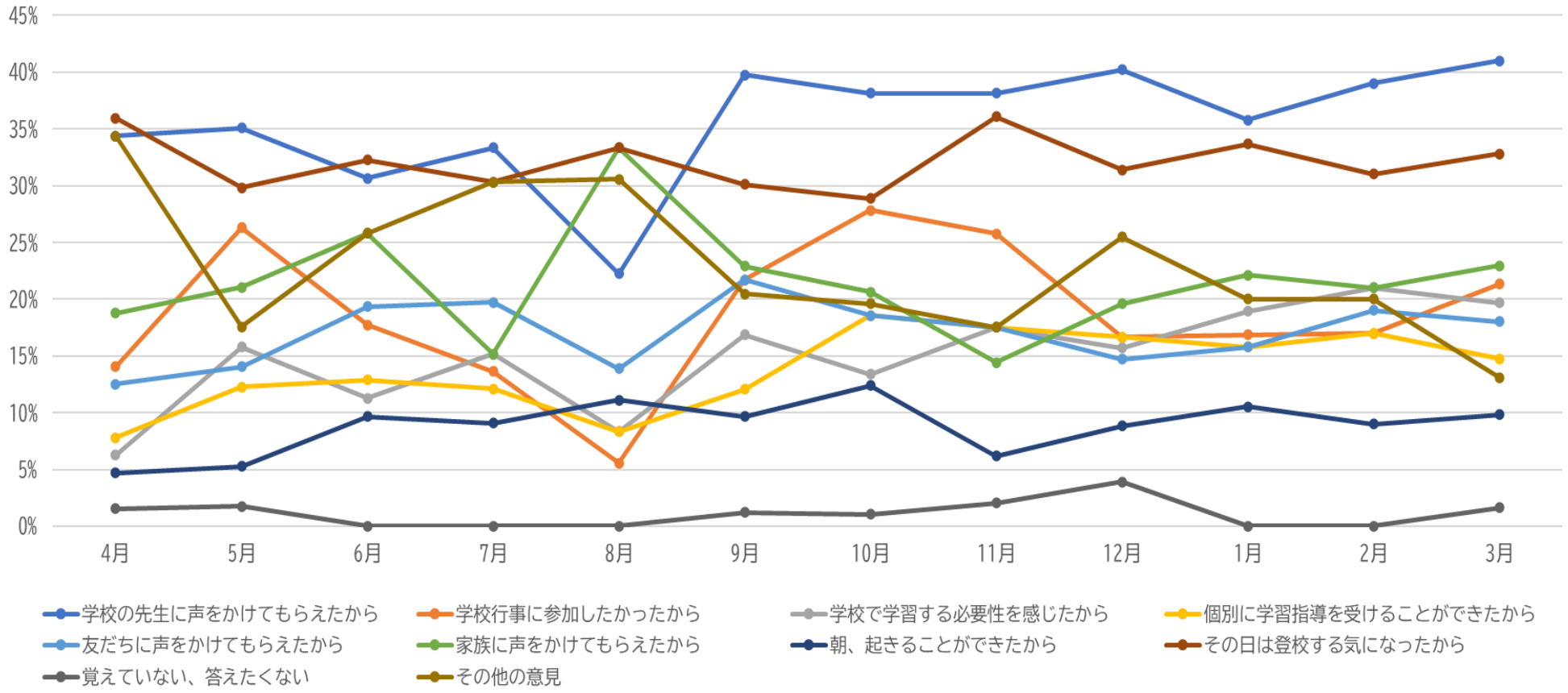


図62　フリースクール等民間施設の利用日数

☞ １年間を通して「１日～５日」の利用が多かった。８月は夏休みの影響もあり「利用しなかった」が多いものの、「６日～10日」、「16日以上」という回答も年間を通して多い傾向がある。

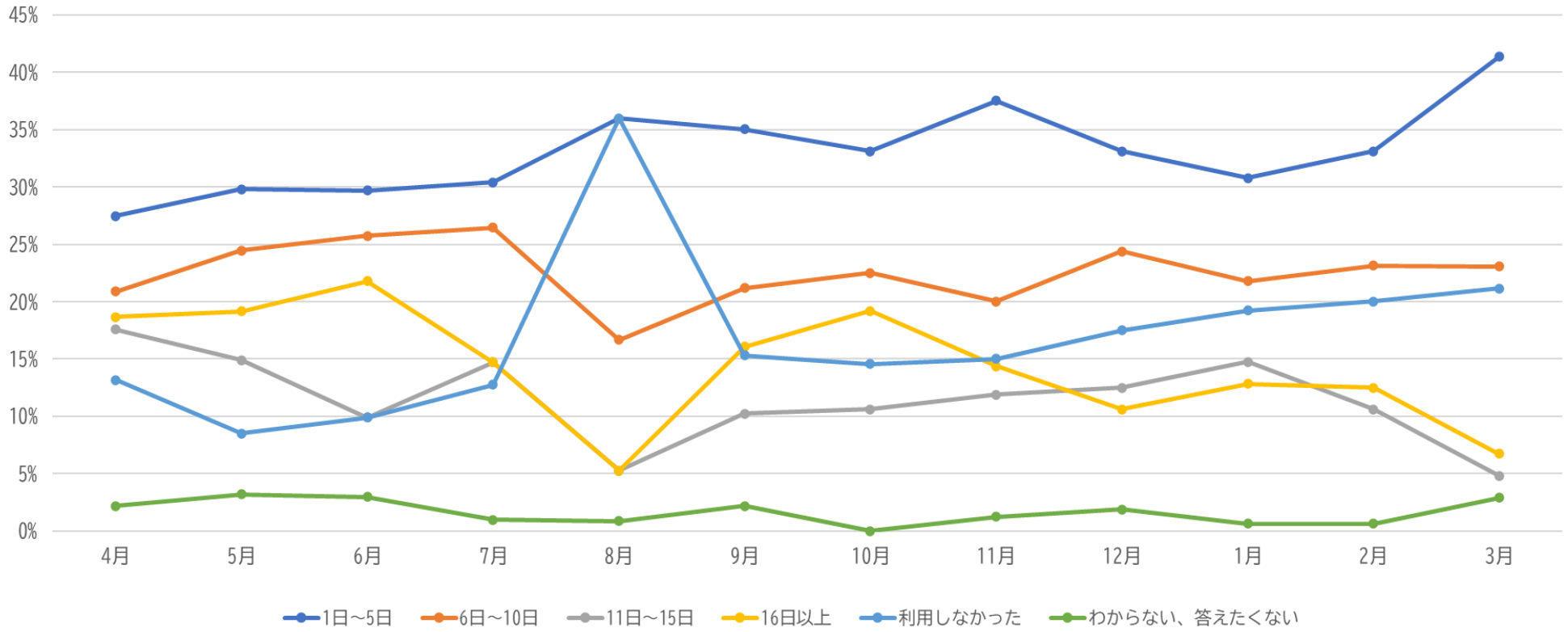


図63　フリースクール等民間施設の活動内容等で良かったこと（複数回答）

☞ フリースクール等民間施設での活動について、「学校・自宅以外で過ごせる場所があったこと」、「子どものペースで過ごせたこと」、「いろいろな体験ができたこと」「子どもたちが自主的に取り組める活動があったこと」が活動内容でよかったと感じており、１年間を通してそれほど大きな変化は見られない。

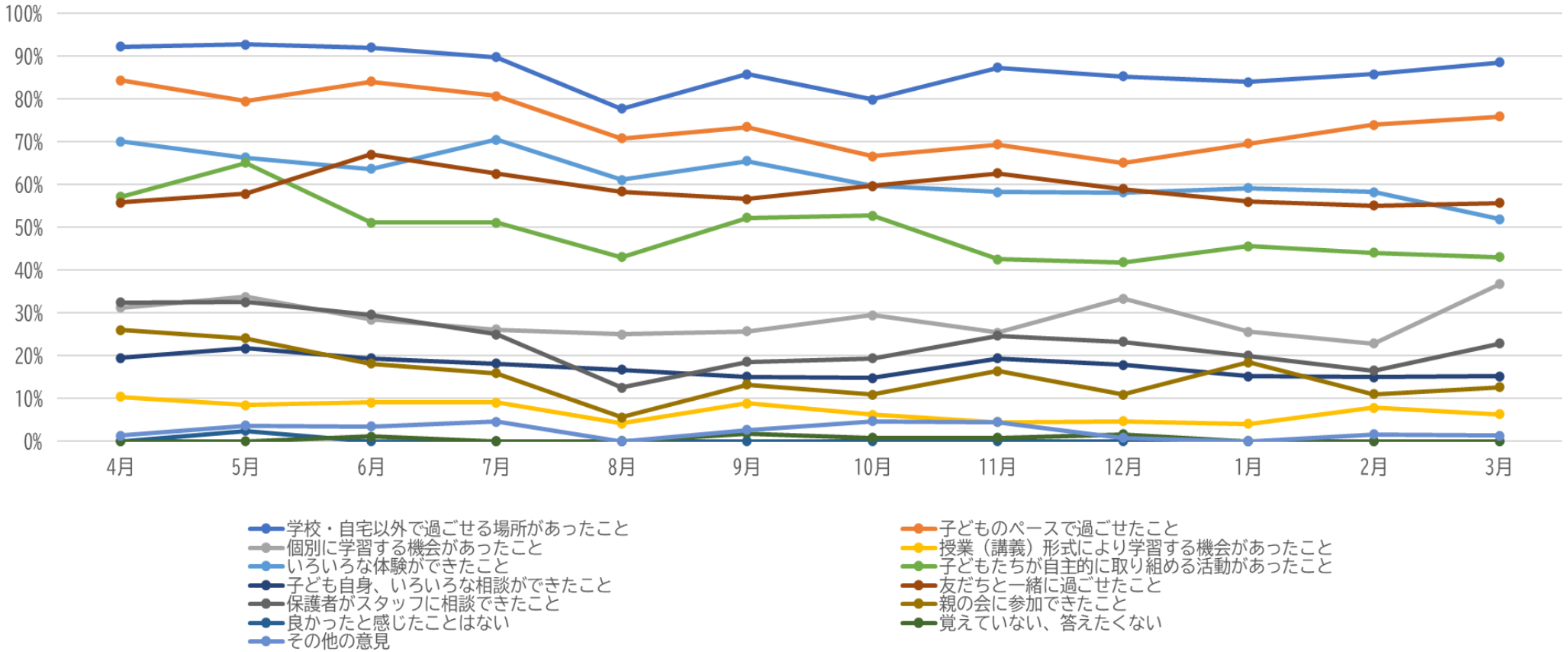


図64　（図62で「利用しなかった」と回答された方について）
利用されなかった理由（複数回答）

☞ ８月を除いて、１年間を通して「本人が利用したいと思わなかったから」との回答が多く、次いで「お子様の体調が優れなかったから」となっている。体調が優れなかったのは、５月～６月に多い傾向がみられた。

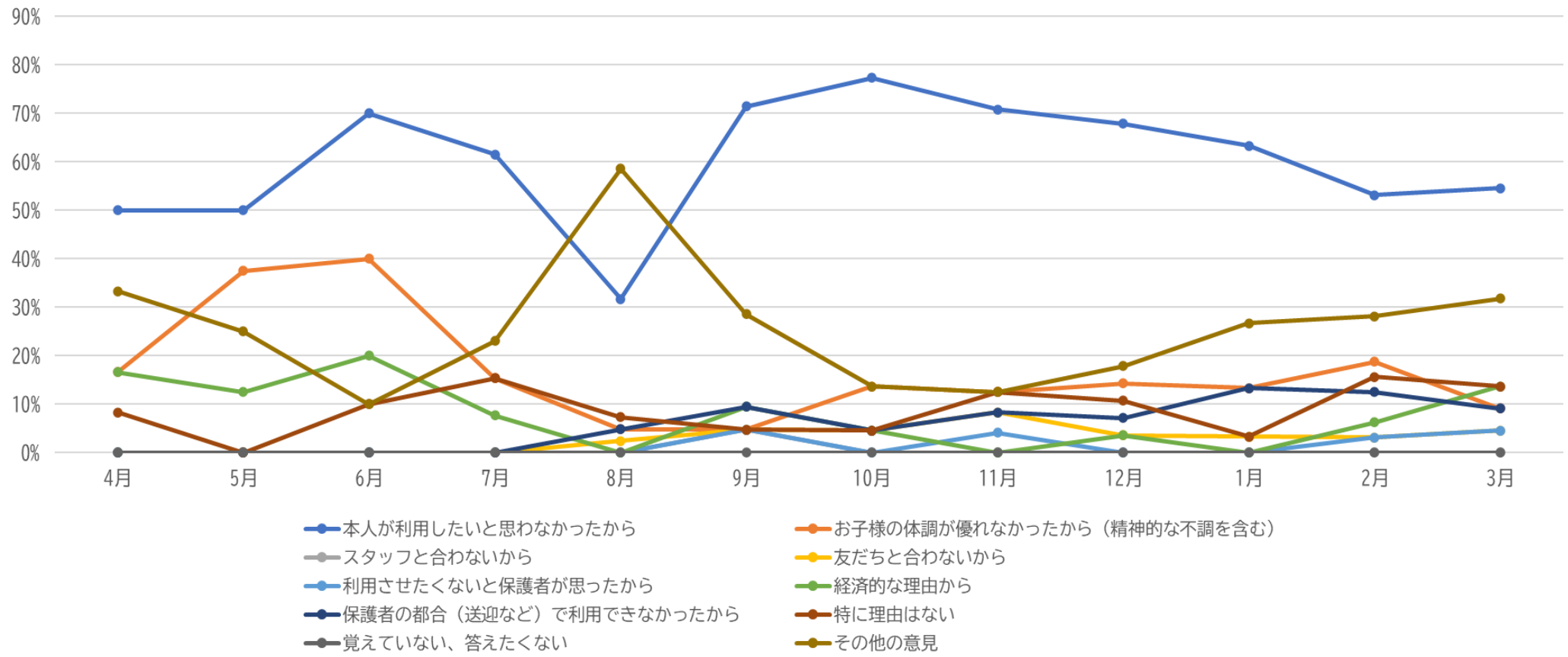


図65　学校やフリースクール等民間施設以外の学習機会の有無【施設利用あり】（複数回答）

☞ 当該月に民間施設を利用した人に限定して尋ねたところ、１年間を通して、「自主学習をした」が最も多く、次いで「学校やフリースクール等民間施設以外に学習の機会はなかった」の回答が多かった。その他「家族や知り合いに教えてもらった」「塾で学習した」が続くが全体としては多くない。

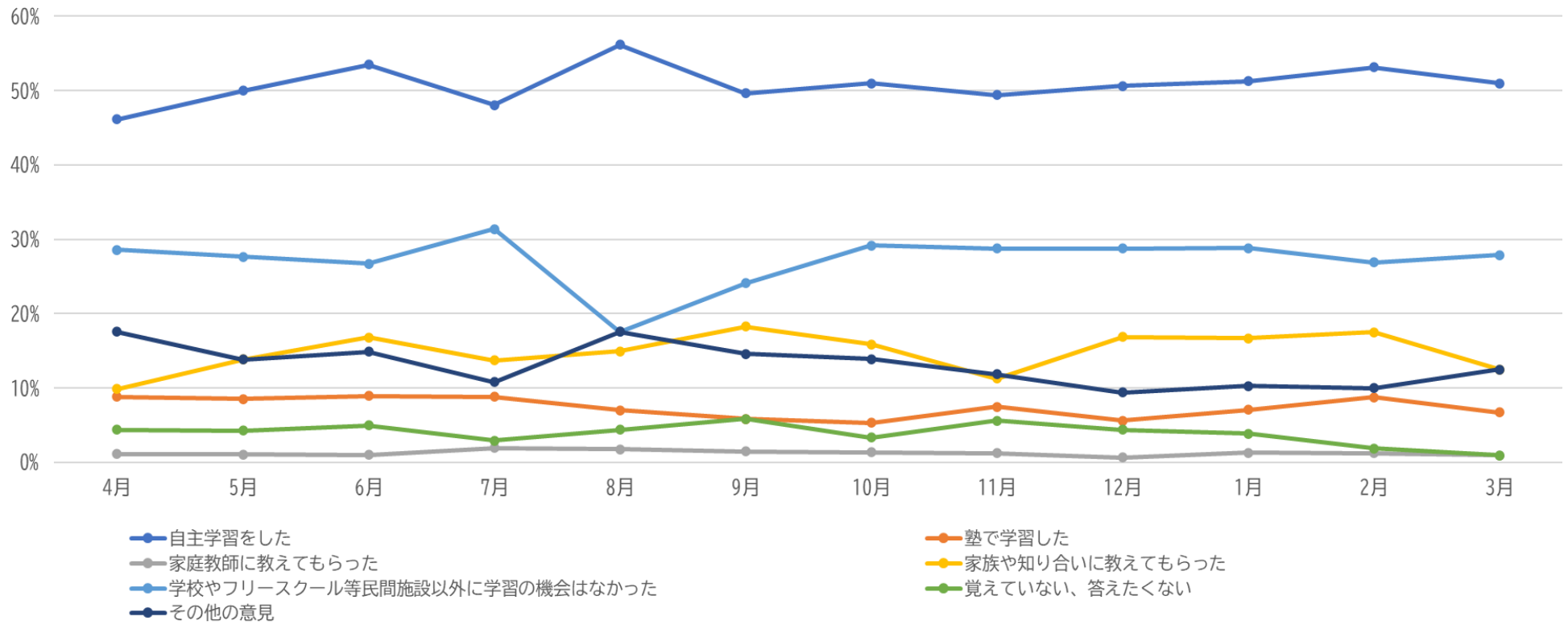


図66　学校やフリースクール等民間施設以外の学習機会の有無【施設利用なし】（複数回答）

☞ 当該月に民間施設を利用していない人に限定して尋ねたところ、「自主学習をした」が多く、その他「学校やフリースクール等民間施設以外に学習の機会はなかった」の回答があった。

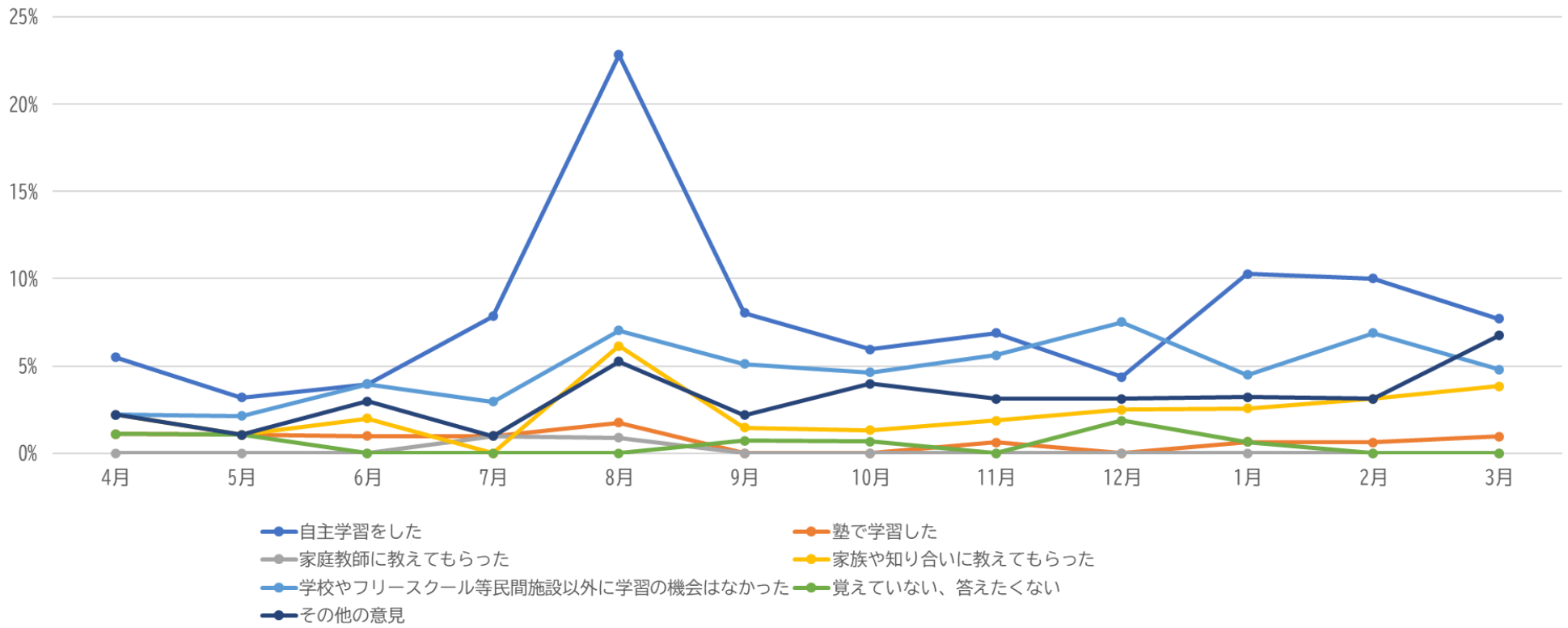


図67　前月と比べたイライラ度

☞ 【イライラすること】の回答では、いずれも「変わらない」が約60～80%の間で推移しているが、７月と９月は、「減った」の回答がやや多く、８月は「増えた」の回答が増加している。

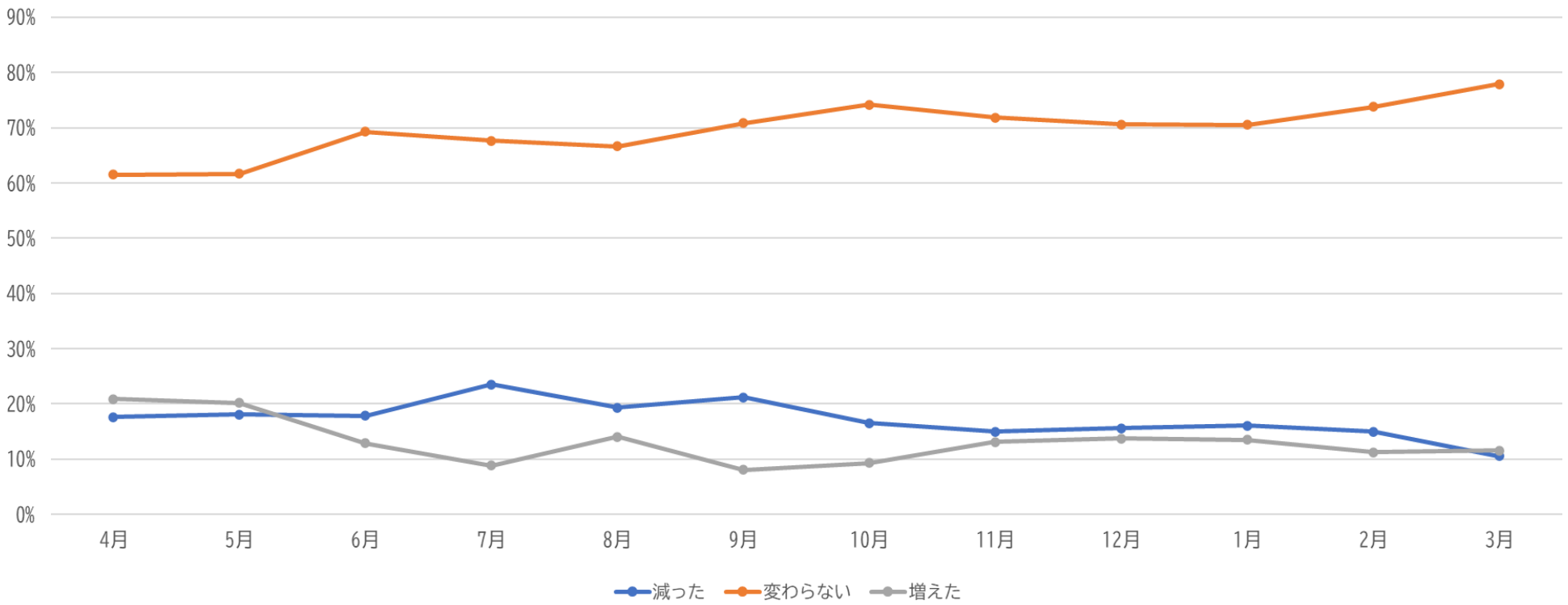


図68　前月と比べた孤独感・孤立感

☞ 【孤独感・孤立感】の回答では、いずれも「変わらない」が約70～80%の間で推移しているが、７月～９月ごろに、「減った」の回答がやや多く、３月は「増えた」「減った」の回答がともに増加している。

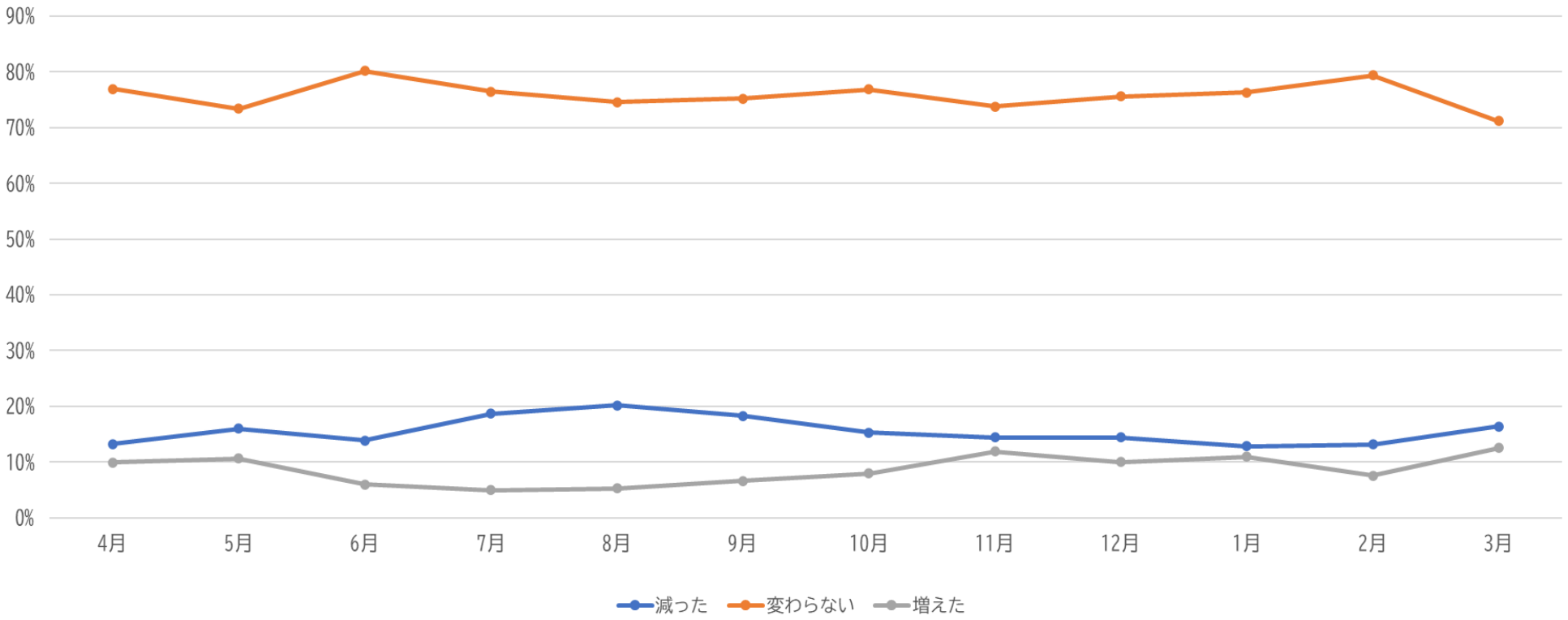


図69　前月と比べた落ち込んだり、自分を責めたりする機会

☞ 【落ち込むこと・自分を責めること】の回答では、いずれも「変わらない」が約60～80%の間で推移しているが、８月は「減った」「増えた」人がともに増加し、「変わらない」と回答する人が減少している。

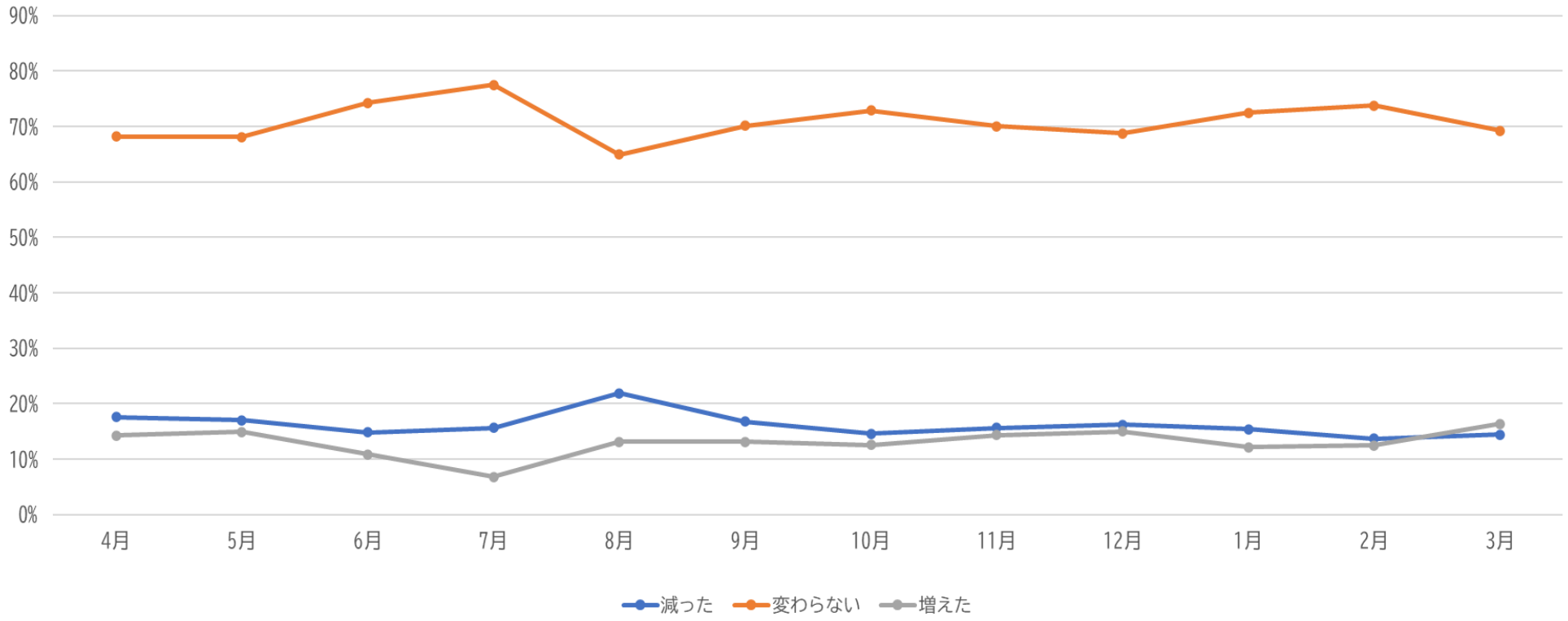


図70　前月と比べた食生活や生活リズム

☞ 【食生活や生活リズム】の回答では、いずれも「変わらない」が約70～90%の間で推移し、７月～９月にかけて「安定した」の回答がやや増加している。

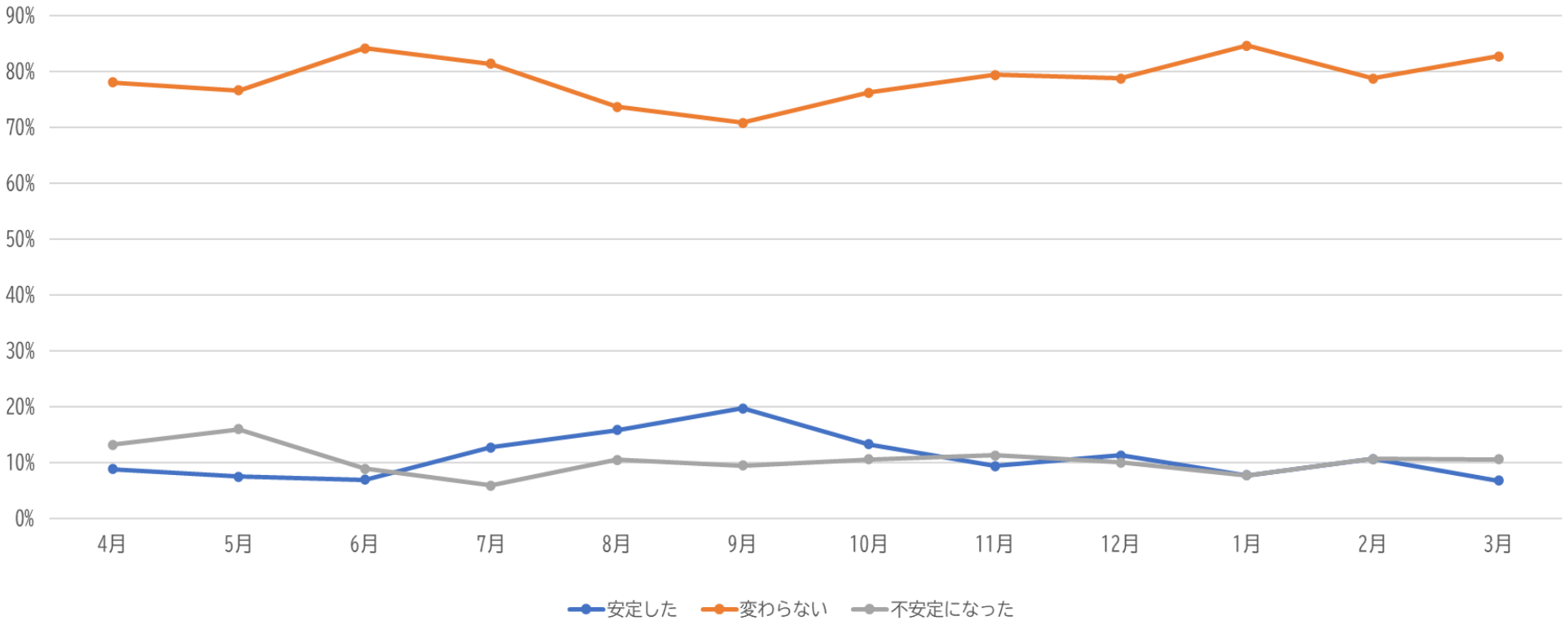


図71　前月と比べて、子や保護者の自宅での様子の変化（自由回答）

【主な回答】

（４月）
- 学校へ行こうと意欲的だった。
- 学校へ行きだし、学習に関する話題が増えた。
- 不安感が増してイライラしたり寝つきが悪くなったりした。

（５月）
- 家では、子なりに体調や心が楽になる過ごし方をしていた。
- 友だちと会えるのは楽しそうだが、学習が大変そうだった。
- 門タッチを始め、少しでも学校に行こうと思えたのは良かった。

（６月）
- 進路のこともあり不安が強まった。
- 自ら外出を希望することがあった。
- 地域の居場所に行けるようになった。
- 学校に行く気力がなかった。

（７月）
- 夏休みが近づくことを楽しみにしていて、気持ちが楽そうに見えた。
- 外出したいと言う機会が増えた。
- 卒業写真を撮るのが目的で学校へ行けた。

（８月）
- 夏休みでゆったり伸び伸びと過ごせた。
- 友だちと出かける機会があり、表情も柔らかくいろいろやってみたいという発言が増えた。
- 穏やかに過ごせて、元気になった。

（９月）
- 新学期の始まりは気持ちが少し不安定だった。
- 学校の先生や友だちと以前よりスムーズにコミュニケーションが取れていた。
- 運動会の練習が始まり、参加したい気持ちと嫌な気持ちで揺らいでいた。

（10月）
- 勉強の意欲がなくなってきた。
- 受験のことを考えるようになり、自分なりに行動を起こせていた。
- 学校行事が多い季節で、SNSなどから盛り上がっている状況が見え、気持ちや体調に波が出ていた。

（11月）
- 進路のことについて話すことが増えたが、話すと不安やイライラが増えているような気がした。
- 学校行事に向け目標を立て、参加できた。
- 友だちの声かけでやる気が出て行動できた。

（12月）
- 前向きな日とそうでない日の差が激しかった。
- 冬休みが近づき少し学校に足が向いた感じがした。
- 周りの友だちが受験勉強で遊べず、イライラをきょうだいに向けていた。

（１月）
- 春から進級することなどに対して、子に焦りがみられた。
- 新学期が始まり、周囲が受験期で忙しく、不安が重なる状況からイライラザワザワしているように感じた。
- 目標に向かって少しずつ頑張っていた。

（２月）
- 卒業すること、進学することに強い不安を持っていた。
- 子も保護者も精神的に落ち込みがあった。

（３月）
- 自分から外出したいと伝えて来る日が増えた。
- 卒業式に出る気持ちがあり、式の練習に少しずつ参加していた。（反対に、卒業式が近づくにつれて不安になるという意見もあった）

図72　来月の過ごし方

☞ １年間を通して「登校するし、フリースクール等民間施設も利用する」「フリースクール等民間施設を利用する」が多かった。８月は学校が休みであるためか、７月時点の来月の予定は「登校するし、フリースクール等民間施設も利用する」が顕著に少なく、「特に考えていない」が多くなる傾向があった。

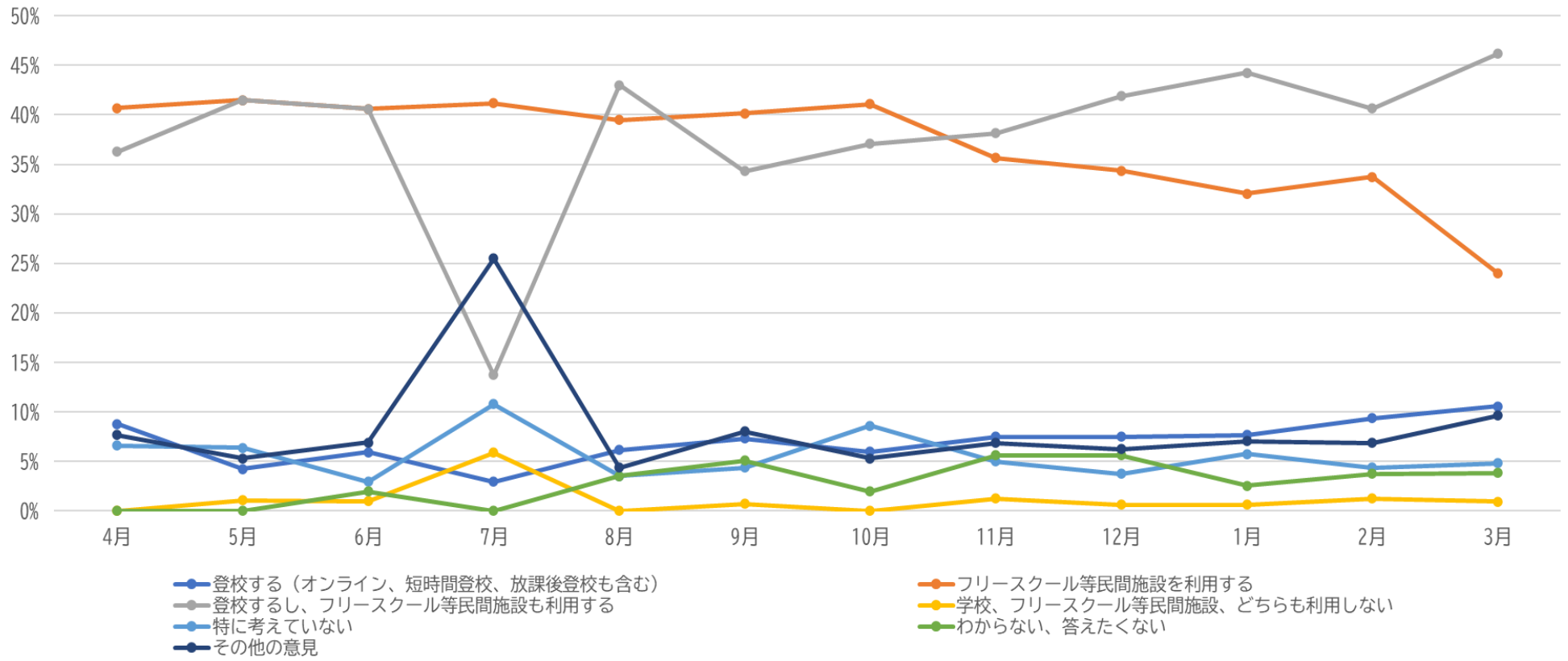


図73　（図72で「登校する」と回答された方について）
その理由（複数回答）

☞ 「お子様本人が望んでいるから」がどの月も回答の多くを占めた。ただし、図70において「登校する」と回答した人が少ないことに注意する必要がある。

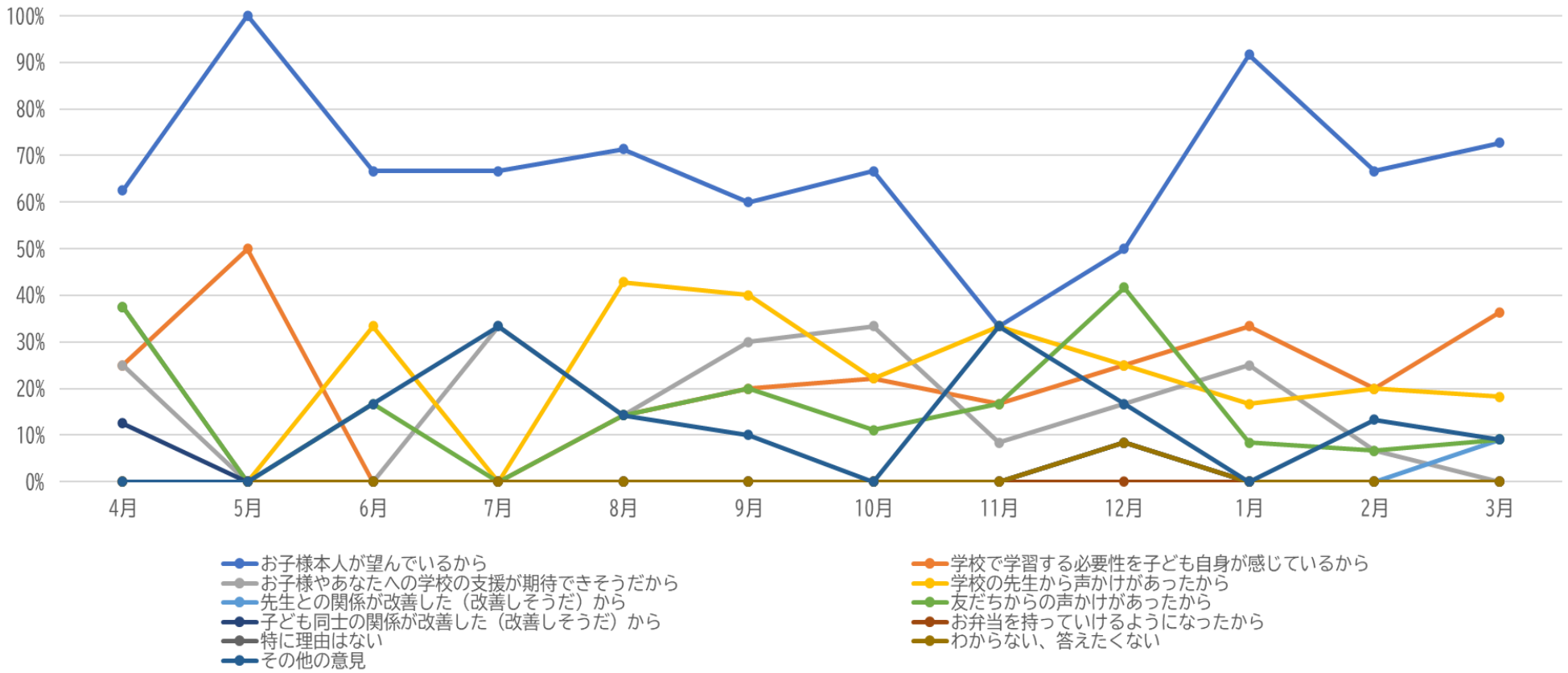


図74　（図72で「フリースクール等民間施設を利用する」と回答された方について）
その理由（複数回答）

☞ １年間を通して「お子様本人が望んでいるから」の回答が多かった。次いで「フリースクール等民間施設の活動内容が子どもに合いそうだから」の回答が多かったが、月日が経つにつれてだんだん減っていく傾向がみられた。

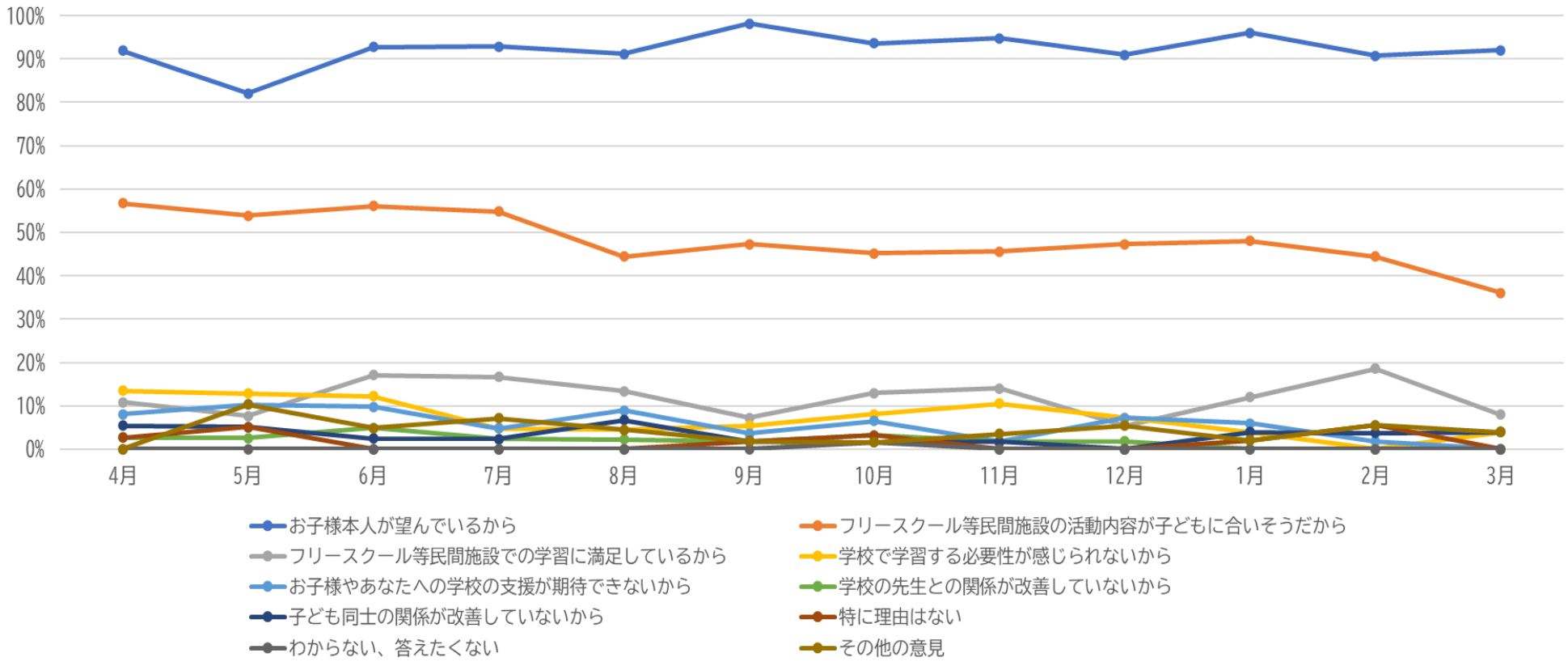


図75　（図72で「登校するし、フリースクール等民間施設も利用する」と回答された方について）
その理由（複数回答）

☞ 「お子様本人が望んでいるから」の回答が最も多く、次いで「フリースクール等民間施設の活動内容が子どもに合いそうだから」となっている。

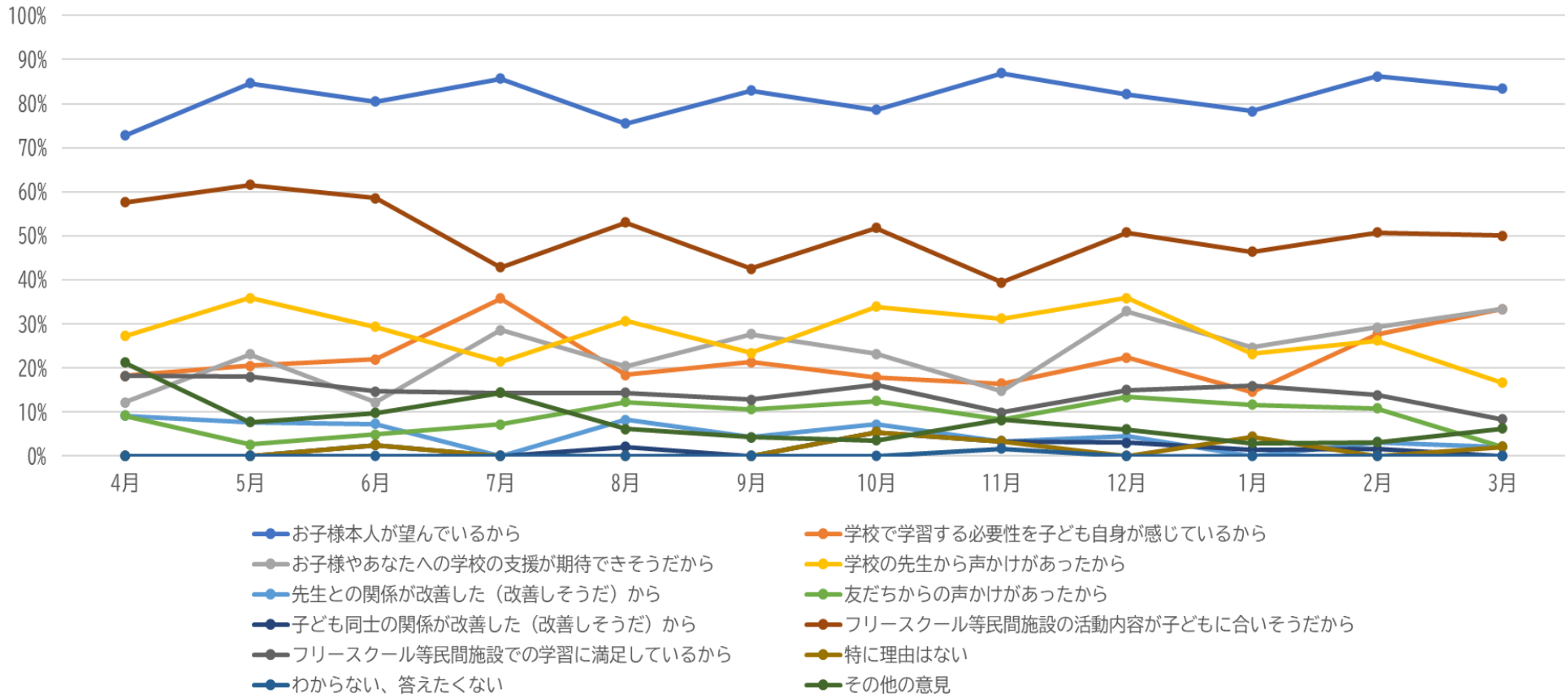


図76　子どもの良い変化の有無

☞ １年間を通して「良い変化があった」との回答が多かったが、11月以降は「良い変化があったと感じたことはなかった」との回答がやや多い傾向がみられた。

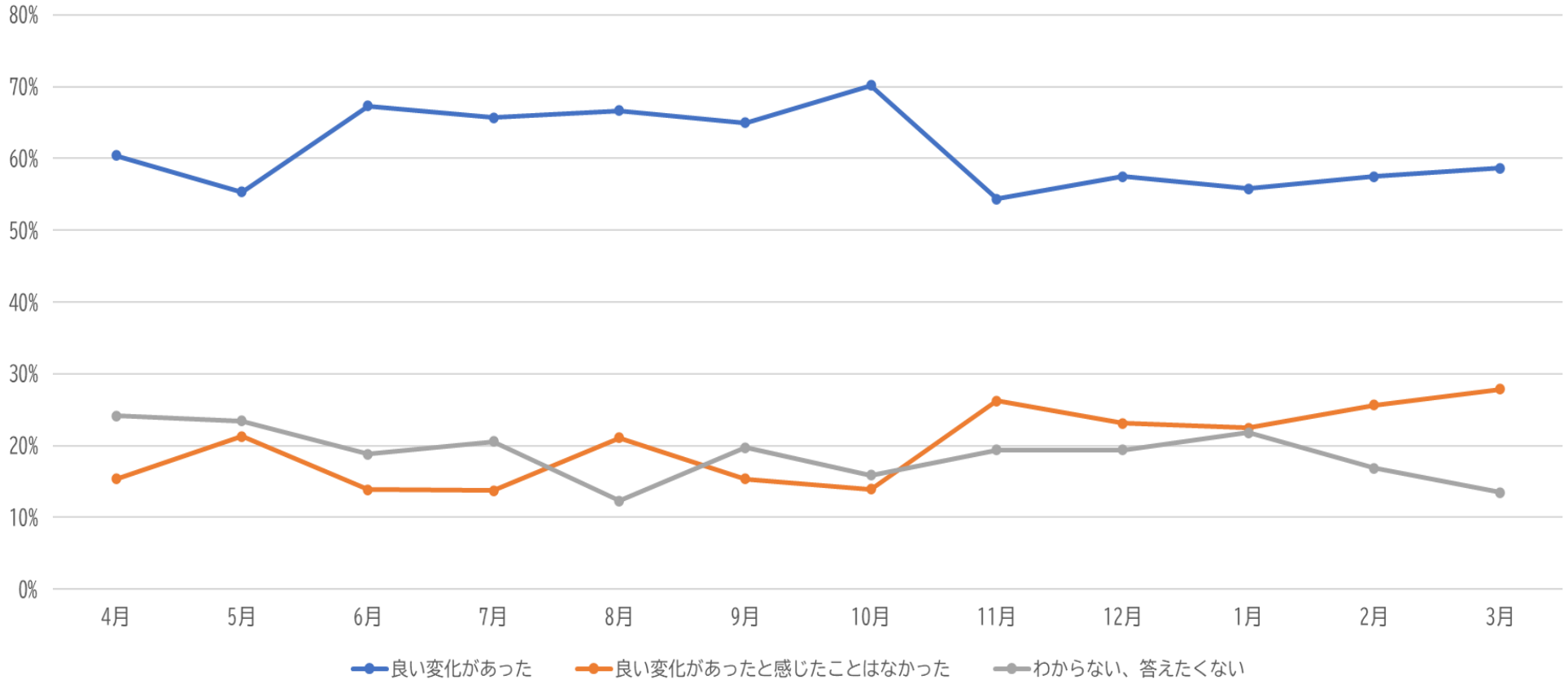


図77　（図76で「よい変化があった」と回答された方について）
そう感じた理由（複数回答）

☞ 「安定して生活が送れるようになった」「学習意欲が高まった」「心が落ち着いてきた」「健康的に過ごすことができた」「明るくなった」などの回答が多い傾向にあった。

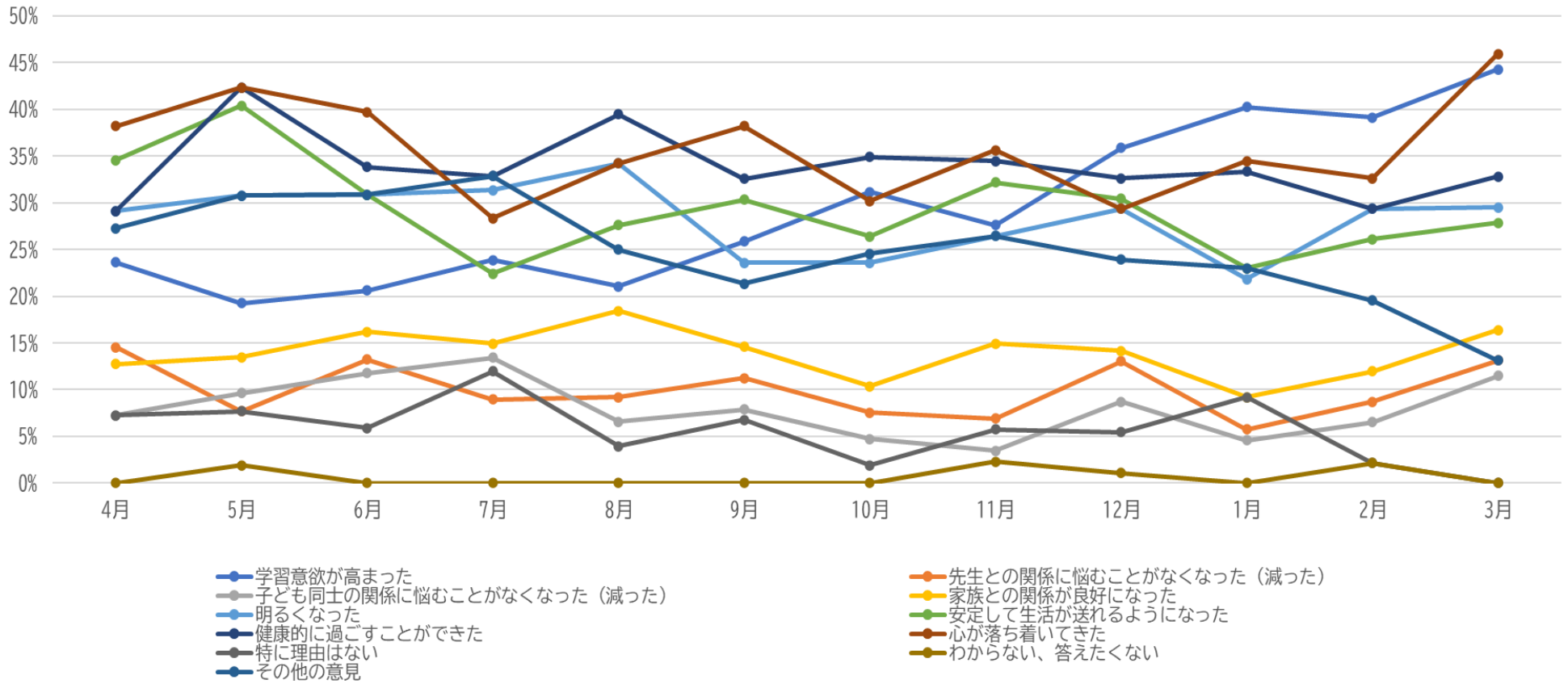


図78 （図76で「よい変化があったと感じたことはなかった」と回答された方について）そう感じた理由（自由回答）

【主な回答】

（４月）
- 様子に変化はない。いつもと同じ。
- 学校へ行くことを拒否することが増えた。
- 学校から良い声かけがあったが本人の返事に変化はなかった。

（５月）
- 家にいる時間が増えた。
- 目標がなくダラダラ過ごしてしまっていたから。
- 学校へ行く気がどんどんなくなってきている。

（６月）
- 学校に行きたくないと泣いて言うようになった。
- 安定してきており、特に変わりがなかった。

（７月）
- 先月と変わらず、心、行動ともに安定していた。
- 体調が不安定な期間があった。
- 相変わらず登校渋りがあった。

（８月）
- 家で勉強するようになった。
- ゆっくり自分のやりたいことへの時間を過ごすことができ、人とうまく関わっていた。

（９月）
- オンライン授業にあまり参加できなかった。
- 行事が多く、しんどそうだった。
- 昼夜逆転し、食事をほとんど取らなかった。

（10月）
- 親が不安定なせいか、子も不安定だった。
- 学校とフリースクールを両方行くことで安定していた。
- 学校に行きたくない日が増えてきた。

（11月）
- 進路のことなどを考え、将来を悲観し始めた。
- 家にいるだけで何をしたいのか、したらいいのかわからず、落ち着きのない様子が多かった。
- 気持ちが沈んでいた。無気力。

（12月）
- 食欲がなくなったり、不安がったりすることが増えた。
- 不安定さが増し、どんどん余裕がなくなってきていた。
- 教室に入れない状況が続いていた。

（１月）
- 部屋に１人でいる時間が増えた。
- 生活リズムが崩れていた。
- あまり状況が改善している気がしなかった。

（２月）
- 学校に行ける日が減った。
- 自主学習をしなくなった。

（３月）
- 放課後登校やフリースクールへ行き渋ることがあった。
- 学校に行くことを嫌がっていたから。